苫小牧市立学校再編ビジョン（案）

～みんなの笑顔を未来へつなぐ～







令和８年１１月

苫小牧市教育委員会

【　目　次　】

第１章　背景・位置づけ…… ４

第２章　学校・児童生徒数の現状と推計…… ６

第３章　学校再編（適正規模・適正配置）の基本的な考え方…… １５

第４章　ビジョンの全体像・ブロック別方針…… １７

学校再編の先に　…… ３１

資料編…… ３２

第１章　背景・位置づけ

１．本ビジョン策定の背景

日本社会は、少子化の進行が危機的な状況であり、令和６年の国内の出生数は、過去最低を更新し、70 万人を下回るなど、今後も減少傾向が続く見込みです。この全国的な傾向は本市においても例外ではなく、本市の出生数は、平成 23 年をピークに減少し続けており、令和６年の出生数は、779 人と過去最低となりました。

本市の児童生徒数も昭和６０年の約 24,000 人（１学年平均約 2,000 人）をピークに減少し、令和７年５月１日時点において、約 12,000 人（１学年平均約 1,333 人）と半減し、大幅に減少しています。

児童生徒数の減少により、市内の学校の中には、クラス替えが行えない学年が生じ、多様な考えに触れる機会が少なくなる、集団活動やグループ活動などが制限される、運動会などの行事における教育効果が下がるなど、教育活動に様々な影響を与えています。

また、児童生徒の安全性確保のために、学校施設の老朽化や熱中症対策における環境整備も喫緊の課題となっており、エアコン設置を含め、施設改修や維持管理には多額の費用を要することから、計画的な環境整備が求められています。

本市ではこれまで、平成２１年に策定した「苫小牧市立小中学校規模適正化基本方針」（以下「基本方針」）に基づき、明徳小学校や弥生中学校の統廃合による教育環境の維持・向上に向けた取組を進めてきました。



また、令和３年度には「苫小牧市立小中学校規模適正化『現状と課題』」にて、市内の５つのブロックにおける統廃合の検討例とともに、順次各地域での協議を進めていく考えを示してきましたが、児童生徒数は想定を上回るスピードで減少していることから、今後の児童生徒数推計をもとに、中長期的な視点から、本市全体の学校の在り方を示した「苫小牧市立学校再編ビジョン（以下「ビジョン」）」を策定します。

学校は子どもたちにとっての学びの場であると同時に、災害時の避難所や放課後児童クラブのほか、学校開放事業など、地域コミュニティの核としての機能を併せ持っていることから、地域の実情を考慮して再編を進めます。

２．位置づけ

本ビジョンは、本市のまちづくりを進める上での最上位計画である「苫小牧市総合計画」をはじめ、本市の教育における包括的な目標である「苫小牧市教育大綱」及び学校教育の取り組むべき方向について指針を示した「苫小牧市学校教育推進計画」を上位計画とするほか、市全体の公共施設に関する計画である「苫小牧市公共施設等総合管理計画」との連携を図りながら、子どもたちにとって、より望ましい教育環境の整備を目指します。

【上位計画】

- 苫小牧市総合計画
- 苫小牧市教育大綱
- 苫小牧市学校教育推進計画
- 苫小牧市立小中学校規模適正化基本方針

苫小牧市立学校再編ビジョン

「苫小牧市立小中学校規模適正化基本方針」に基づき、今後の児童生徒数の減少を見据えた学校規模適正化・適正配置の中・長期的な全体像

【関連計画】

- 苫小牧市公共施設等総合管理計画
- 苫小牧市小・中学校施設整備計画

３．計画期間

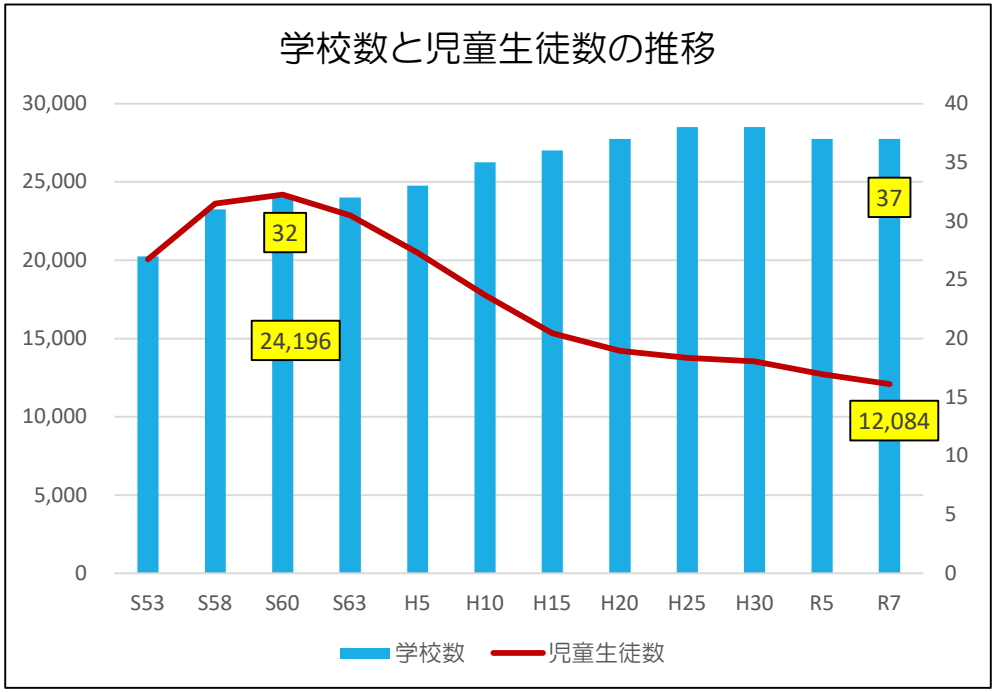
本ビジョンの期間は、令和９年度（2027 年度）から令和１８年度（2036 年度）までの１０年間としますが、社会情勢や児童生徒数の推移などの変化も想定されることから、適宜見直すこととします。

第２章　学校・児童生徒数の現状と推計

１．学校数と児童生徒数の推移

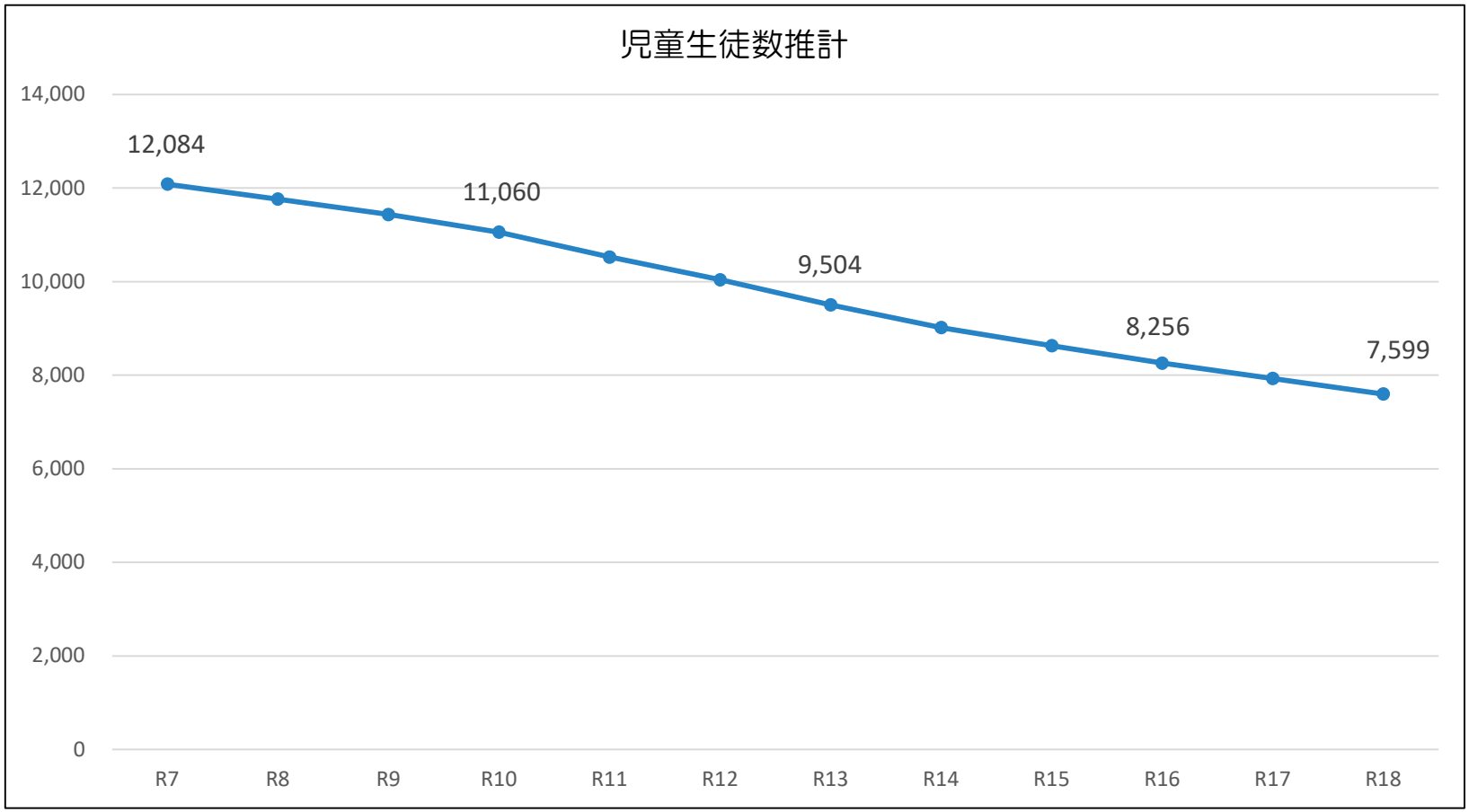
児童生徒数は、昭和６０年の 24,196 人をピークに減少が始まり、令和７年５月１日時点では、12,084 人となっています。学校数は、児童生徒数がピークの昭和６０年には、３２校でしたが、東部の宅地開発等による影響から学校数は増加し、現在は、小学校が２２校、中学校が１４校、義務教育学校が１校の計３７校となっています。

年度	児童生徒数	学校数	学級数	１校あたりの児童生徒数
S60	24,196	32	620	756 人
H10	17,776	35	532	507 人
H20	14,207	37	466	383 人
H30	13,536	38	438	356 人
R5	12,729	37	418	344 人
R7	12,084	37	406	326 人



２．児童生徒数の将来推計

本市全体の児童生徒数は、令和７年５月１日現在の児童生徒数 12,084 人（１学年平均 1,342 人）に対し、令和１８年度には、約 7,600 人（１学年平均８４４人）と推計しています。



R7(2025)は５月１日時点における学級編成の児童生徒数
R8-R13 は、各年度の出生数をスライドした推計
R14-R18 は、コーホート変化率法による推計

3．規模別の学校数

※義務教育学校（植苗小中学校）を除く。

【令和７年度（2025）】

〈小学校〉

学校規模	学級数	学校数	
過小規模	～5	２校	樽前、勇払
小規模	6～11	８校	日新、清水、明野、苫東、苫西、若草、大成、糸井
適正規模	12～24	11 校	錦岡、澄川、泉野、北星、豊川、北光、緑、美園、拓勇、拓進、沼ノ端
大規模	25～30	１校	ウトナイ
過大規模	31 以上	０校	

【令和１８年度（2036）】

学校規模	学級数	学校数	
過小規模	～5	２校	樽前、勇払
小規模	6～11	12 校	泉野、日新、北星、豊川、清水、美園、明野、苫東、苫西、若草、大成、糸井
適正規模	12～24	８校	錦岡、澄川、北光、緑、拓勇、拓進、ウトナイ、沼ノ端
大規模	25～30	０校	
過大規模	31 以上	０校	

〈中学校〉

学校規模	学級数	学校数	
過小規模	～2	０校	
小規模	３～８	６校	凌雲、開成、明野、沼ノ端、苫東、勇払
適正規模	９～１８	７校	緑陵、啓明、明倫、啓北、和光、光洋、ウトナイ
大規模	１９～２４	１校	青翔
過大規模	２５以上	０校	

学校規模	学級数	学校数	
過小規模	～2	０校	
小規模	３～８	１１校	凌雲、緑陵、啓明、明倫、開成、和光、明野、沼ノ端、苫東、光洋、勇払
適正規模	９～１８	３校	啓北、青翔、ウトナイ
大規模	１９～２４	０校	
過大規模	２５以上	０校	

4．学校施設の状況

学校施設の多くは、建設から長い年月が経過しており、老朽化が深刻な問題となっています。
施設の改修や建て替えには、多額の費用が必要となるため、計画的な施設整備が必要です。

小学校	学校名	建築年度	延床面積（㎡）	備考
A	錦岡小	S41	6,956	S63 屋体改築 H30 校舎増築 R1 校舎大規模改修
	澄川小	S53	7,640	
	泉野小	S59	7,472	
B	日新小	S47	8,058	
	北星小	S51	7,177	
	豊川小	S55	8,211	
	北光小	S44	6,036	S62 屋体改築 H29 南校舎改築 H30 北校舎大規模改修
C	清水小	S39	5,386	R2 屋体改築
	緑小	R1	7,385	
	美園小	S42	6,595	
	明野小	H5	7,616	
D	拓勇小	H13	8,083	
	拓進小	H24	8,128	H29 校舎増築
	ウトナイ小	H18	9,461	H28･R5 校舎増築
	沼ノ端小	S44	5,806	S61 屋体改築 R6 大規模改修
E	糸井小	S50	5,750	
	大成小	S35	7,178	R8-9 改築予定
	苫小牧西小	S50	7,524	H12 校舎中央棟改築 H25 屋体改築
	苫小牧東小	R2	6,513	
	若草小	S50	7,143	H6 屋体改築 H17 校舎中央棟改築
Z	勇払小	S29	5,115	H3 屋体改築
	樽前小	R6	2,358	
	植苗小中	S46	3,285	H6 屋体改築 R7 大規模改修

中学校	学校名	建築年度	延床面積（㎡）	備考
A	凌雲中	S40	6,140	H5 屋体改築
	緑陵中	H9	6,172	
	啓明中	S56	8,540	
B	明倫中	S52	8,580	
	啓北中	S48	6,648	H29 屋体改築 H30 校舎東棟改築 R1 校舎西棟大規模改修
C	開成中	S46	4,635	
	和光中	S35	7,544	H28 大規模改修
	明野中	H3	6,077	
D	青翔中	H20	8,814	H25･R3 校舎増築
	ウトナイ中	H30	7,148	
	沼ノ端中	S39	5,925	S63 屋体改築 R4 大規模改修
E	光洋中	S59	6,531	H20 校舎中央棟改築 R3 屋体改築
	苫小牧東中	R2	6,840	
Z	勇払中	S38	4,183	H2 屋体改築

※建築年度は学校にある最も古い建物の年度

５．市民意識の分析

本市の学校教育に対し、求めていること等について現状を把握するためアンケート調査を行い、結果を分析しました。

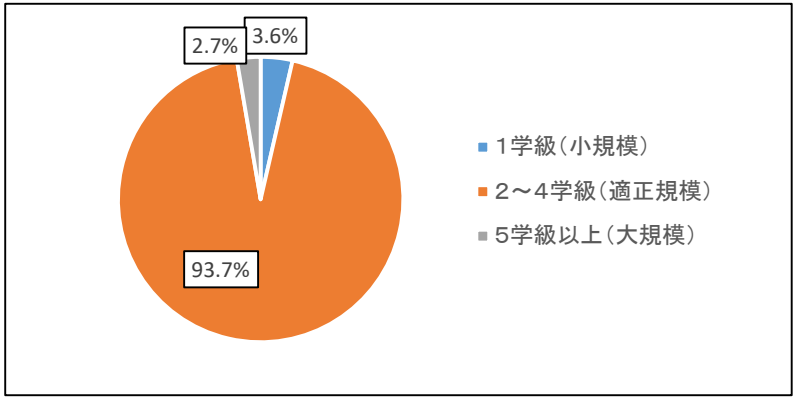
ア　未就学の子を持つ保護者（資料編 33P～　一部抜粋）

調査概要：将来通わせるにあたって望ましい学校規模等について

調査対象：1,200 世帯　回答：５５５世帯　回答率：46.2%

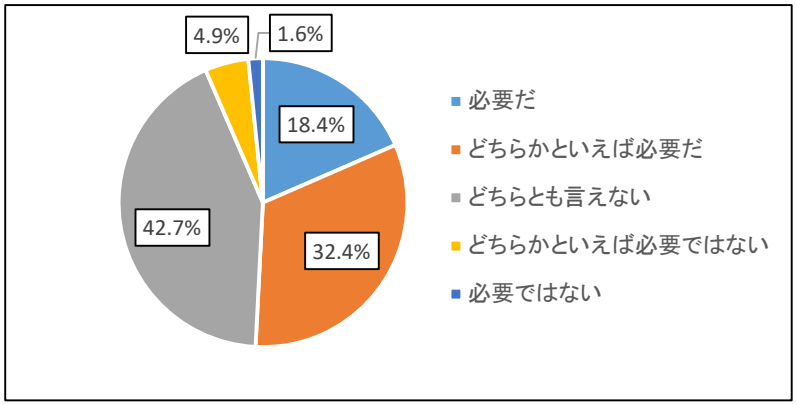
設問　小学校において１学年あたりの望ましい学級数は何学級だとお考えですか。

望ましい学級数については、クラス替えが可能となる「２～４学級（適正規模）」が 93.7%と最も多く、１学級（小規模）を望む声が 3.6%、５学級以上（大規模）を望む声が 2.7%と続いています。９割以上の保護者が自分の子どもをクラス替えが可能な学校に通わせたいと考えていることがうかがえます。



設問　教育委員会が進める学校の再編（統廃合を含む）について、必要だと感じますか。

学校再編の必要性については、「どちらとも言えない」が 42.7%と最も多く、「どちらかといえば必要だ」が 32.4%、「必要だ」が 18.4%と続いています。「どちらかといえば必要だ」、「必要だ」を合わせると 50.8%となり、過半数を超える保護者が、クラス替えが可能な学校規模にするための統廃合をやむを得ないと考えていることがうかがえます。



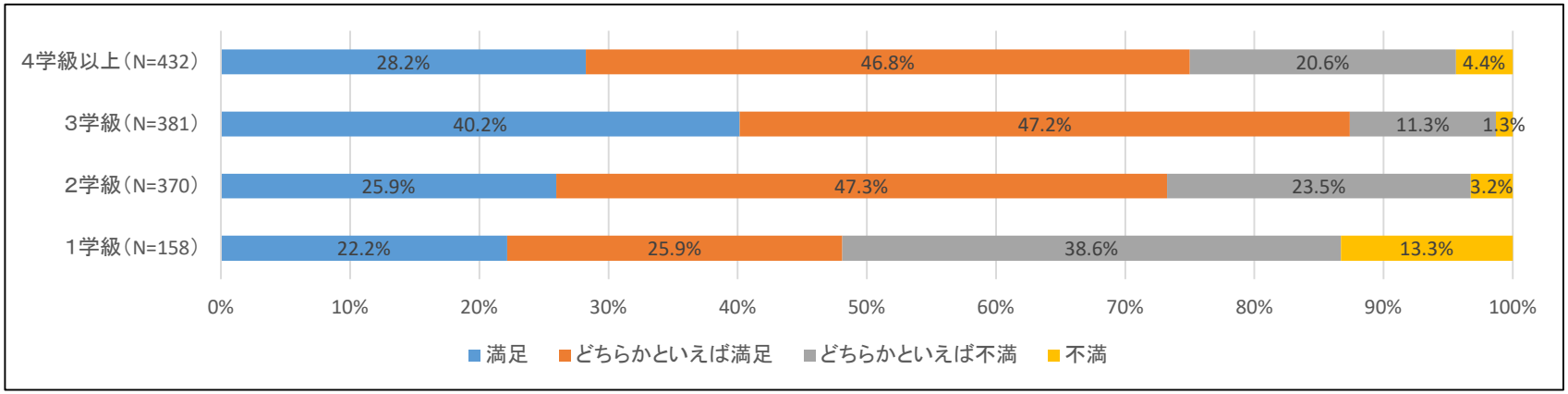
イ　市内の小中学校に通う子を持つ保護者（資料編 37P～　一部抜粋）

調査概要：今の学校規模に対する満足度等について

調査対象：約 8,500 世帯　回答：1,341 世帯　回答率：約 15.7%

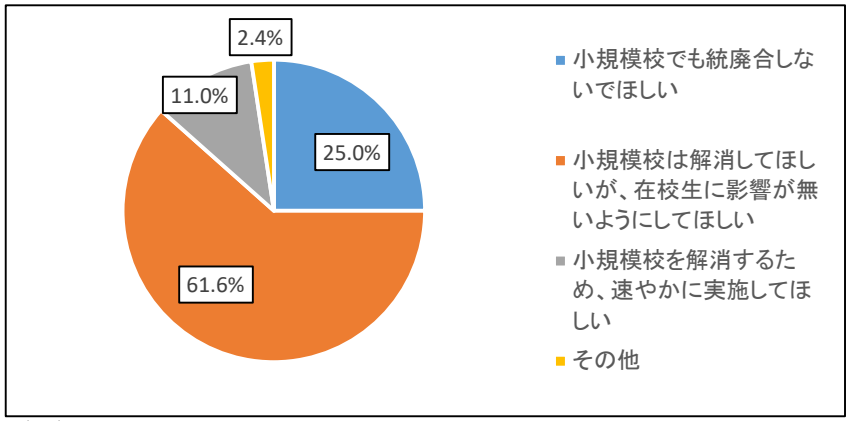
設問　**お子様が通う学年は何学級ですか。回答した学級数についてどのようにお考えですか。**

現在の１学年あたりの学級数に対する満足度について、２学級以上は「満足」、「どちらかといえば満足」が過半数を超えましたが、１学級は「どちらかといえば不満」、「不満」が過半数を超えるなど、現在１学級のクラスの保護者はクラス替えが可能な学級数を望む声が多いことがうかがえました。



設問　**教育委員会が学校統廃合を決定・実施するまでの期間について、希望に最も近いものを選んでください。**

統廃合を実施するまでの期間について、「小規模校は解消してほしいが、在校生に影響が無いようにしてほしい」が 61.6%と最も多く、小規模校の統合の必要性は認識しているものの、子どもの友人関係等に影響が少ないように、時間をかけて進めてほしいという声がうかがえました。一方、「小規模校でも統合しないでほしい」が 25%と次に多く、現状に満足している様子もうかがえました。



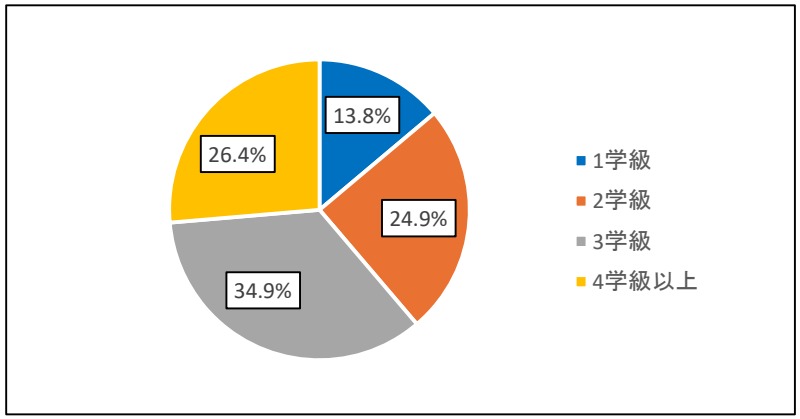
ウ　小学校５年生（資料編 42P　一部抜粋）

調査概要：理想の学級数について

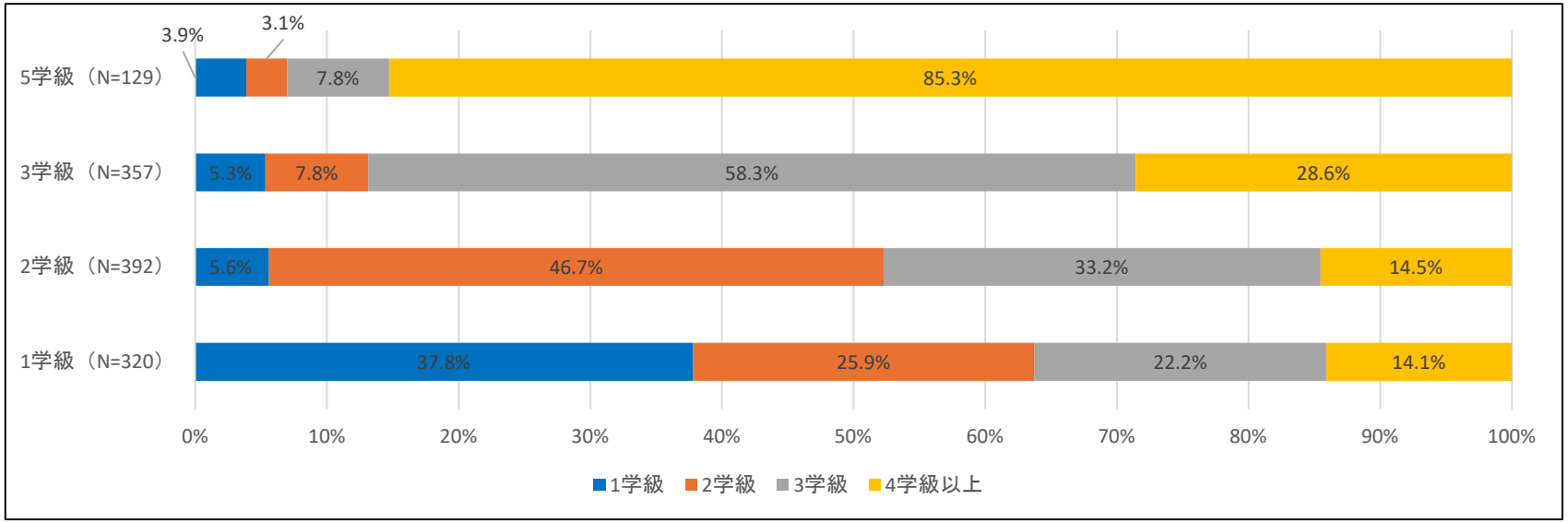
調査対象：1,357 人　回答：1,205 人　回答率：88.7%

設問　**あなたは１学年に何学級あったらよいと思いますか。**

子どもたち自身が考える理想の学級数について、クラス替えが可能となる２学級、３学級、４学級以上と回答した人の割合の合計が 86.1%であるなど、保護者だけでなく、多くの子どもたちも、２学級以上の規模を望んでいることがうかがえました。



また、現在の学級数と理想の学級数の相関については、現在の学級数が少なくなるにつれて、理想の学級数とのギャップがあることがうかがえました。



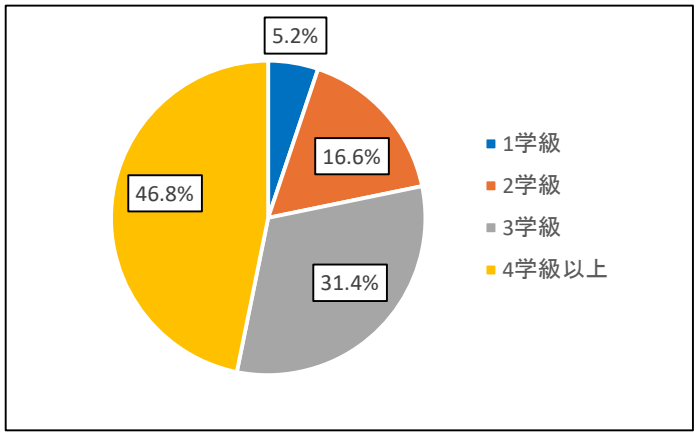
エ　中学校２年生（資料編４３Ｐ　一部抜粋）

調査概要：理想の学級数について

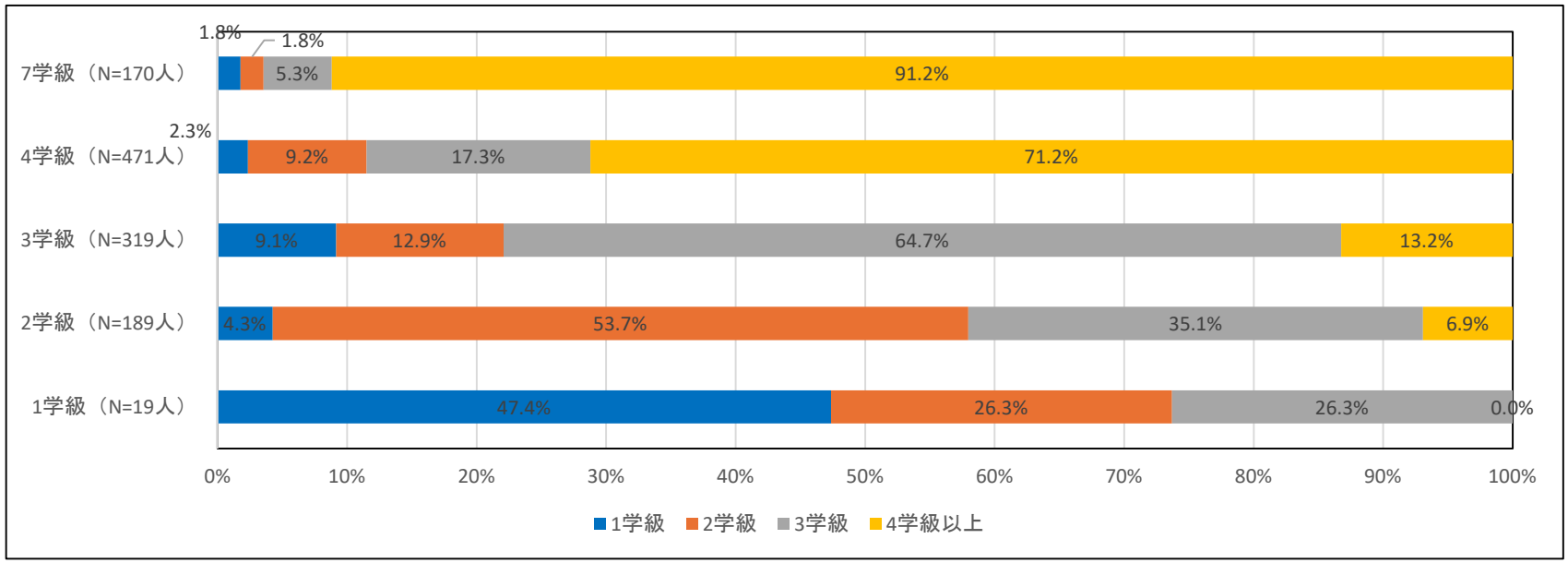
調査対象：1,396 人　回答：1,172 人　回答率：83.9%

設問　あなたは１学年に何学級あったらよいと思いますか。

子どもたち自身が考える理想の学級数について、クラス替えが可能となる２学級、３学級、４学級以上と回答した人の割合の合計が 94.9%であり、小学校５年生の結果と比較しても割合が高く、小学校から中学校へと段階が進むにつれて、複数の学級を望んでいる子どもの割合が多いことがうかがえました。



また、現在の学級数と理想の学級数についての相関については、小学校５年生同様現在の学級数が少なくなるにつれて、理想の学級数とのギャップがあることがうかがえました。



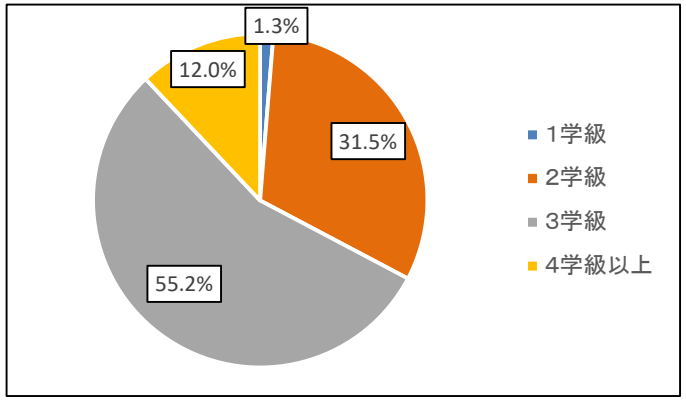
オ　市内の学校に勤務する教員（資料編 44P～　一部抜粋）

調査概要：小規模の学校経営について

調査対象：約 910 人　回答：632 人　回答率：約 69.4%

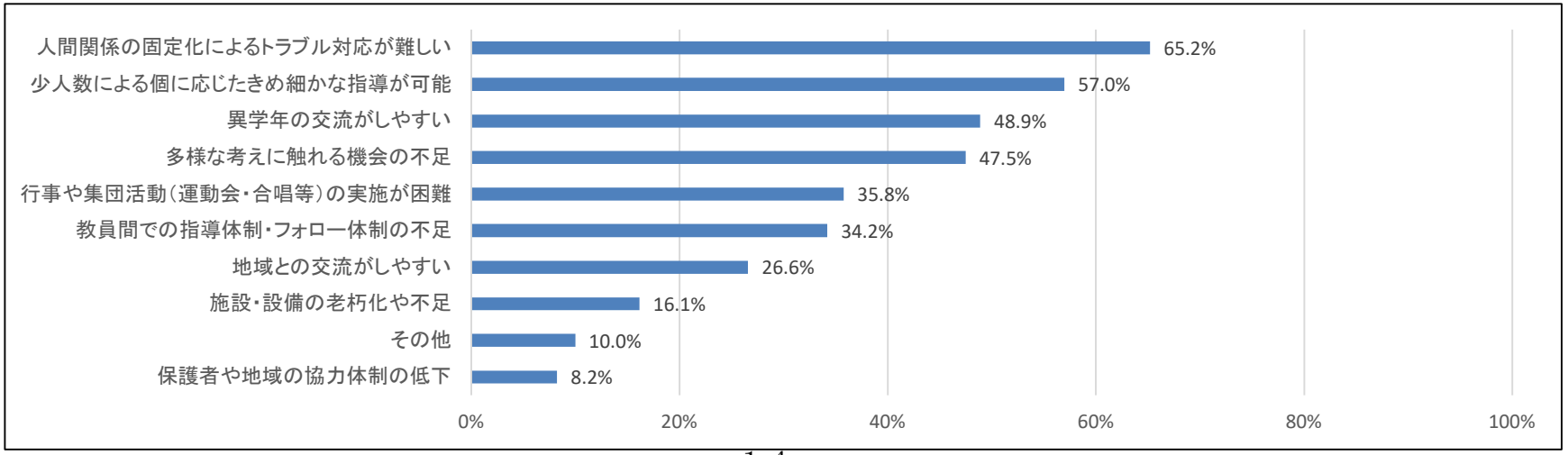
設問　**学校運営や学年経営（切磋琢磨・教員間の連携）の面から見て、望ましい１学年あたりの学級数は何学級ですか。**

日頃から子どもたちと接している教員が考える理想の学級数について、クラス替えが可能となる２学級、３学級、４学級以上と回答した人の割合の合計が 98.7%であり、学年経営や指導面から見ても、複数の学級があることが望ましいことがうかがえました。



設問　**小規模校の教育活動の現状を選択してください。（複数選択）**

小規模校の教育活動の現状については、クラス替えが無いことなどによって「人間関係の固定化によるトラブル対応が難しい」が 65.2%と最も多く、次に、人数が少ないため「少人数による個に応じたきめ細かな指導が可能」が 57.0%続くなど、小規模には良さもあるものの、それ以上にクラス替えが出来ないという構造的な課題を感じていることがうかがえました。



第３章　学校再編（適正規模・適正配置）の基本的な考え方

○小規模校を再編し、クラス替えが可能かつ、より充実した集団活動が可能な環境を整備します。

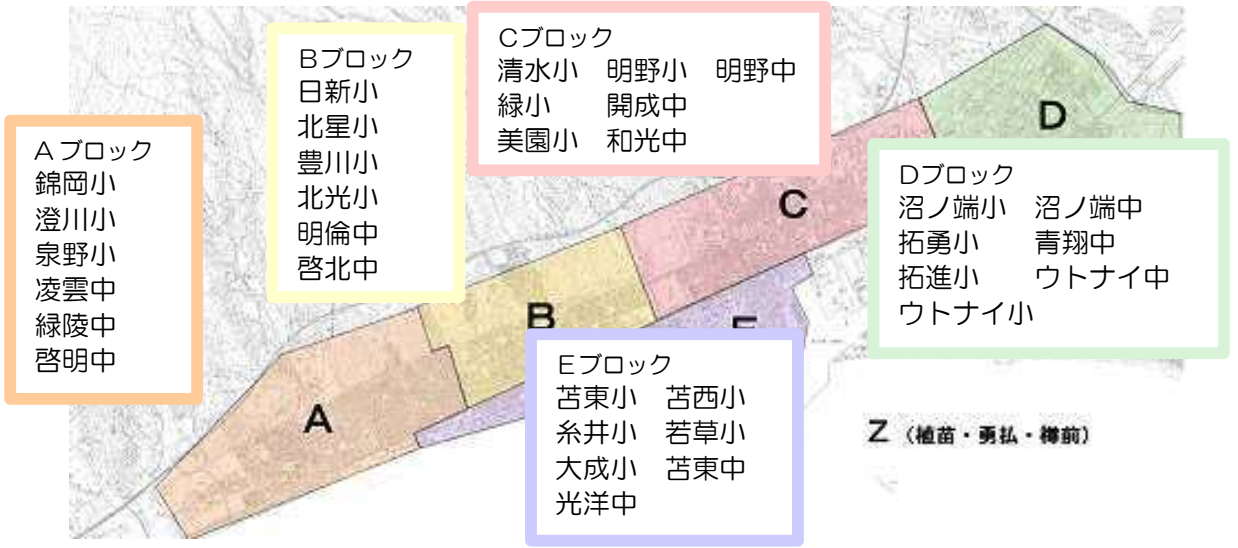
学校の再編（適正規模、適正配置）は、平成２１年に定めた「基本方針」をもとに、小規模校は校舎の老朽化の状況や統合後の受入れ人数などを考慮して、適正規模とするための統廃合を進めます。

適正規模校は、現状を維持しますが、校舎改築時に児童生徒の推移と全市的なバランスを見て、必要に応じて適正配置を検討し、大規模校は、児童生徒数の動向を十分見極め、通学区域（以下「校区」）の見直しを検討します。

○全市的な配置バランスを見極めながら隣接校と統合し、小中連携や地域コミュニティの要素も考慮します。

学校を適正規模とするため、本市を５つのブロックに分け、ブロックごとに隣接校との統合を検討しますが、一部地域ではブロックを跨いだ統廃合も検討します。

苫小牧ＡＬＬ－９（中学校区を基本としたエリアで義務教育９年間を見通した小中連携教育）や、コミュニティ・スクールの取組などにおける、地域と学校との関係も踏まえた学校の再編を行います。



また、植苗小中学校、勇払小学校、勇払中学校、樽前小学校については、地域の特性を鑑み、５つのブロックの概念からは除外して考えます。

○スクールバスの活用などを検討し、通学の安全を確保します。

本市では、自宅から学校までの距離を、小学校でおおむね２㎞、中学校でおおむね４㎞を、徒歩通学可能な目安としていますが、学校の統廃合に伴い、この距離を超える通学距離となる小学校が発生します。この場合、児童の安全・安心な通学を第一に考え、スクールバスによる通学を基本とします。

また、中学校でおおむね３ｋｍを超える場合は、自転車通学の許可、公共交通機関の利用にかかる通学費の補助等を行うことで、通学の負担を軽減します。

【特別支援学級の児童生徒に対する配慮について】

特別支援学級に在籍している児童生徒の中には、環境の変化に順応することが苦手な子どももいるため、事前交流の充実や、統合前の教員の配置継続など、可能な限り配慮を行います。

【閉校後の校舎、敷地の利活用について】

閉校後の校舎や敷地の利活用については、校舎の老朽化など施設の状態や各地域の実情に応じた対応を市と連携して検討します。

- 統合先の学校を地域の防災拠点として整備し、充実させるほか、１次避難所としては、近隣の代替施設を示しながら地域ごとに対応します。
- 利用可能な新しい体育館は、市や民間のスポーツ施設としての活用などを検討します。
- 老朽化により利用できない校舎・体育館は解体し、宅地分譲や商業施設の誘致など再開発の協議を進めます。

第４章　ビジョンの全体像・ブロック別方針

現在、小学校が２２校、中学校が１４校、義務教育学校が１校の計３７校ありますが、小学校７校、中学校３校を隣接する学校との統廃合により閉校し、既に義務教育学校として開校することが決定している勇払小学校及び勇払中学校を含めると、計画期間が終了となる令和 18 年度（2036 年）には、小学校 14 校、中学校 10 校、義務教育学校が２校の計 26 校となります。

＜ 小 学 校 ＞

現状

Aブロック	1	錦岡小
	2	澄川小
	3	泉野小
Bブロック	4	日新小
	5	北星小
	6	豊川小
	7	北光小
Cブロック	8	清水小
	9	緑小
	10	美園小
	11	明野小
Dブロック	12	拓勇小
	13	拓進小
	14	ウトナイ小
	15	沼ノ端小
Eブロック	16	糸井小
	17	大成小
	18	苫小牧西小
	19	苫小牧東小
	20	若草小
Zブロック	21	樽前小
	22	勇払小
	23	植苗小中

再編後

Aブロック	1	錦岡小
	2	澄川小
	3	泉野小
Bブロック		
	4	北星小
	5	北光小
Cブロック		
	6	緑小
	7	明野小
Dブロック	8	拓勇小
	9	拓進小
	10	ウトナイ小
	11	沼ノ端小
Eブロック		
	12	大成小
	13	苫小牧東小
Zブロック	14	樽前小
	15	勇払小中
	16	植苗小中

＜ 中 学 校 ＞

現状

Aブロック	1	凌雲中
	2	緑陵中
	3	啓明中
Bブロック	4	明倫中
	5	啓北中
Cブロック	6	開成中
	7	和光中
	8	明野中
Dブロック	9	青翔中
	10	ウトナイ中
	11	沼ノ端中
Eブロック	12	光洋中
	13	苫小牧東中
Zブロック	14	勇払中
	15	植苗小中

再編後

Aブロック		
	1	緑陵中
Bブロック	2	明倫中
	3	啓北中
Cブロック		
	4	和光中
	5	明野中
Dブロック	6	青翔中
	7	ウトナイ中
	8	沼ノ端中
Eブロック	9	光洋中
	10	苫小牧東中
Zブロック	11	勇払小中
	12	植苗小中

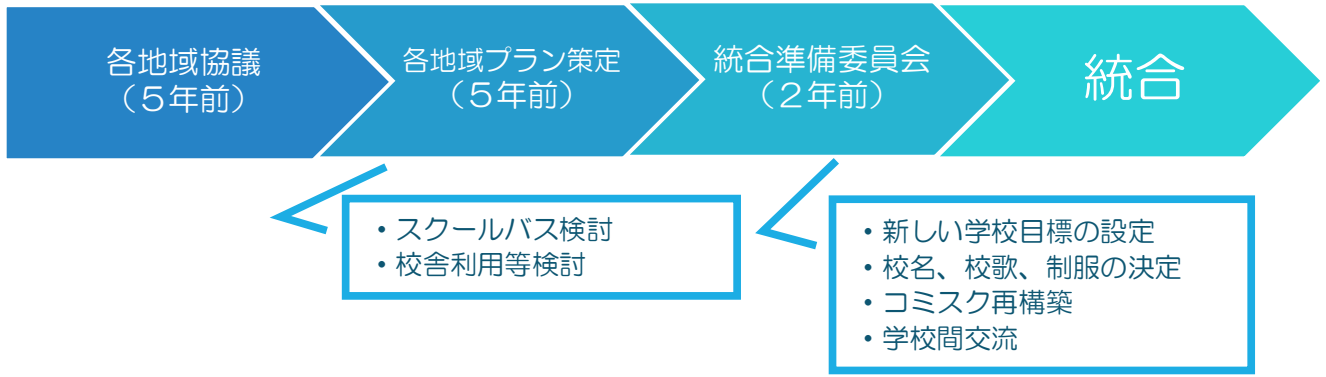
統合スケジュール予定

統廃合校	R9 (2027)	R10 (2028)	R11 (2029)	R12 (2030)	R13 (2031)	R14 (2032)	R15 (2033)	R16 (2034)	R17 (2035)	R18 (2036)
凌雲中→緑陵中										
美園小→緑小（明野小）										
開成中→和光中										
糸井小・苫西小→大成小										
若草小・苫西小→苫東小										
日新小・豊川小→北星小（北光小）										
啓明中→明倫中（緑陵中）										
清水小→緑小										

【ビジョン策定経過・統合スケジュール イメージ】



※以下は、標準的な流れを示しており、地域により変更となる場合があります。



地域プランでの検討事項

～地域説明会での意見を踏まえた今後の検討課題～

統合に向けた課題は学校によって様々であるため、統合の５年前から作成する「地域プラン」において、引き続き個別に検討します。

検討課題	主な検討内容
スクールバス	・対象範囲　・運行ルート　・乗降場所　・運行時間　・安全確保体制の整備
通学費用補助	・自宅から中学校までの距離がおおむね３ｋｍを超える場合の通学費の補助
放課後児童クラブ	・統合先の学校での設置可否
校舎・跡地の利活用	・校舎、体育館を解体せず利活用する可能性 ・利活用が困難な場合における校舎解体後の跡地の方向性
避難所	・代替避難所の確保
投票所	・代替投票所の確保

※教育環境が整わない場合（スクールバスや必要な教室数が確保できないなど）、統廃合の延期や取りやめも検討します。

▶▶*子どもたちや地域の方々とともに統合後の学校を作ります*

Ａブロック

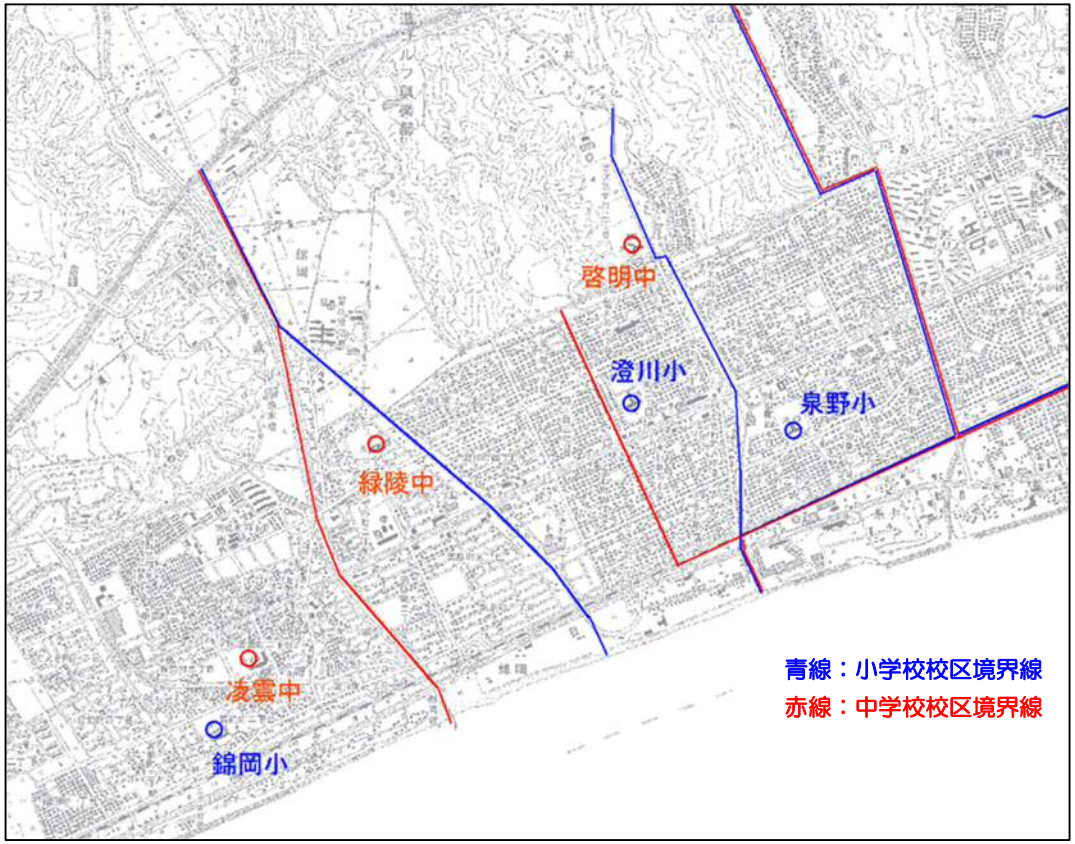
■現状

現在、小学校は、錦岡小学校、澄川小学校、泉野小学校の３校ありますが、いずれも適正規模校となっています。中学校は、凌雲中学校、緑陵中学校、啓明中学校の３校ありますが、各校とも生徒数の減少が見込まれています。特に、凌雲中学校は学級数が減少し、小規模校の状態が続くことが予想されるほか、建物の老朽化も進行しており、改築が必要な時期にあります。

さらに、澄川小学校の進学先が、緑陵中学校と啓明中学校に分かれているため、小学校と中学校の校区が一致しておらず、小中連携教育や学校・家庭・地域の連携が図りにくく、コミュニティ・スクールの運営に課題が生じています。

小学校	R1	R7	R13	R18
錦岡小学校	449	573	445	379
	14	20	16	12
澄川小学校	499	469	343	292
	18	18	12	12
泉野小学校	432	338	232	198
	14	13	10	6
中学校	R1	R7	R13	R18
凌雲中学校	215	209	136	104
	7	7	6	4
緑陵中学校	284	261	269	204
	9	9	9	7
啓明中学校	302	280	230	176
	10	9	9	6

上段：児童生徒数　下段：学級数
※普通学級の数値（推計）



この地図は、苫小牧市長の承認を得て、同市発行の２千５百分の１都市計画図を複製して作成したものである。（承認番号）苫ま承第１号

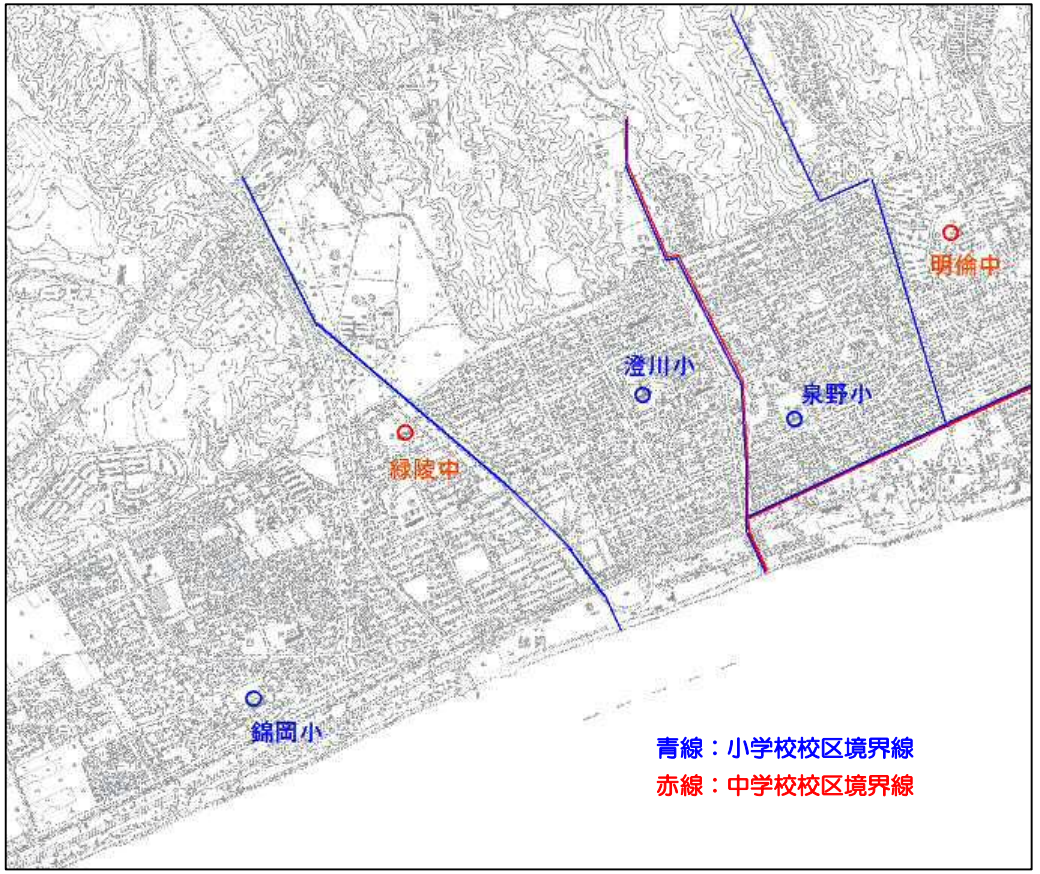
方針

【小学校】
- ３校とも現状維持とします。なお、泉野小学校は小規模校で推移する見込みですが、全市的な学校配置のバランスや中学校の校区を考慮し、現状維持とします。

【中学校】
- 凌雲中学校を緑陵中学校へ統合し、啓明中学校を緑陵中学校と明倫中学校へ統合します。
- 澄川小学校校区全域を緑陵中学校の校区とし、泉野小学校の進学先を、明倫中学校へ変更します。

小学校	R7	R13	R14	R17	R18
錦岡小学校	573	445	433	388	379
	20	16	15	13	12
澄川小学校	469	343	334	299	292
	18	12	11	11	12
泉野小学校	338	232	226	202	198
	13	10	9	6	6
中学校	R7	R13	R14	R17	R18
凌雲中学校	209	136	R14 統合	—	—
	7	6			
緑陵中学校	261	269	389	395	368
	9	9	12	12	12
啓明中学校	280	230	221	R17 統合	—
	9	9	9		

上段：児童生徒数　下段：学級数
※普通学級の数値（推計）



Bブロック

■現状

現在、小学校は、日新小学校、北星小学校、豊川小学校、北光小学校の４校ありますが、日新小学校では、既に一部学年でクラス替えができない小規模校であるほか、豊川小学校や北星小学校においても、近い将来、小規模校となる見込みです。

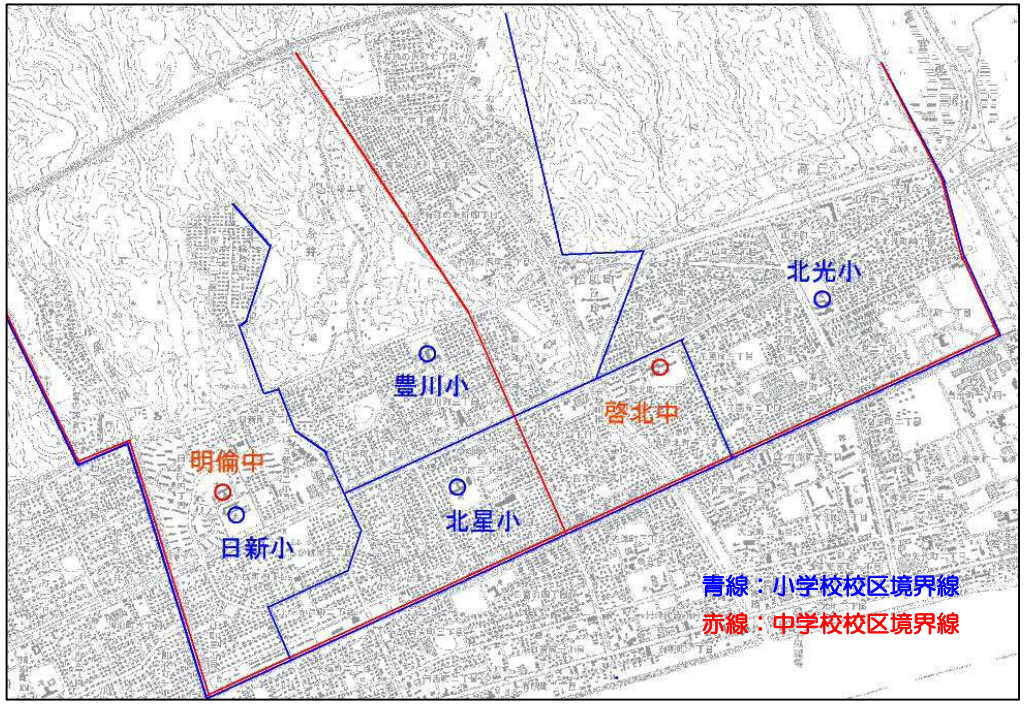
また、３校とも校舎が老朽化しており、特に日新小学校は、大規模な改修が必要な時期となっています。また、北星小学校及び豊川小学校の進学先が明倫中学校と啓北中学校に分かれているため、小学校と中学校の校区が一致しておらず、小中連携教育や学校・家庭・地域の連携が図りにくく、コミュニティ・スクールの運営に課題が生じています。

中学校は、明倫中学校と啓北中学校の２校ありますが、当面適正規模で推移します。

小学校	R1	R7	R13	R18
日新小学校	386	267	152	129
	12	11	6	6
豊川小学校	332	302	212	180
	12	12	9	6
北星小学校	310	270	202	172
	12	12	8	6
北光小学校	432	498	319	271
	13	18	13	12
中学校	R1	R7	R13	R18
明倫中学校	347	340	259	197
	11	11	9	6
啓北中学校	355	359	381	290
	11	11	12	9

上段：児童生徒数　下段：学級数

※普通学級の数値（推計）



方針

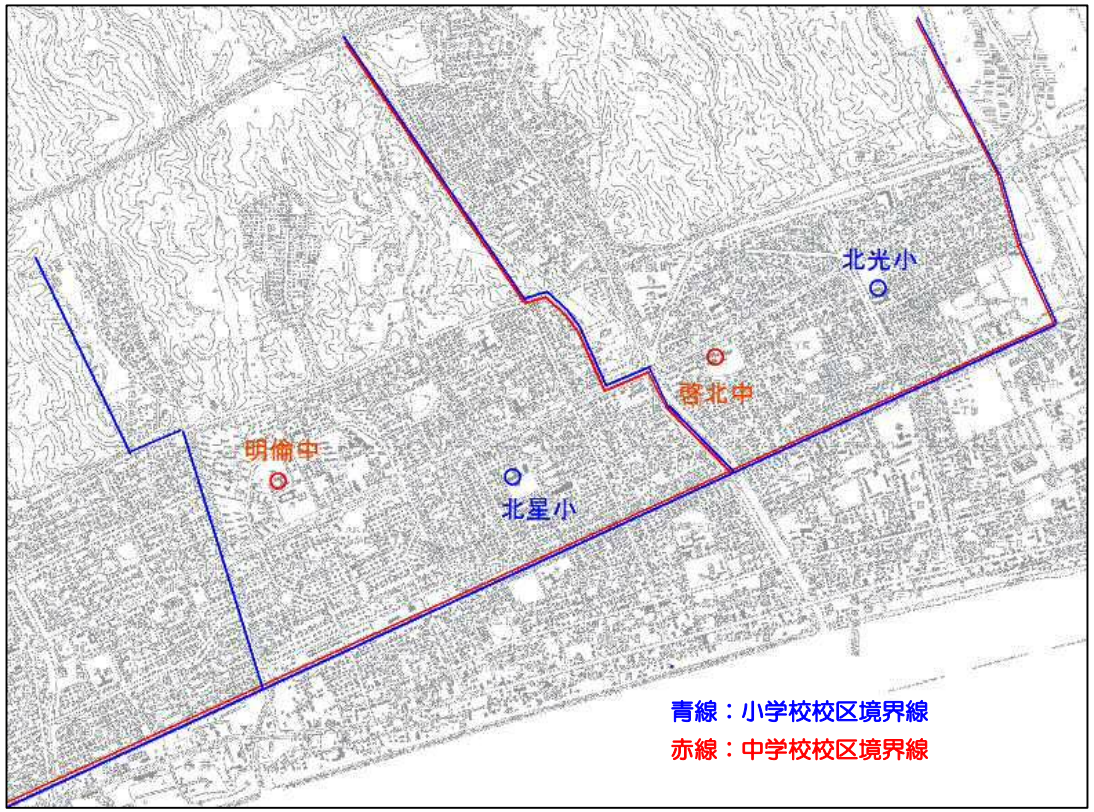
【小学校】
- 日新小学校と豊川小学校を北星小学校へ統合し、統合に伴い校区も再編します。
- 宮の森町や桜坂町の一部地域は、北星小学校への距離が２ｋｍを超えることから、スクールバスの導入を検討します。
- 豊川小学校の校区である松風町、有珠の沢町、豊川町１丁目については、北光小学校の校区へ変更します。
- 有珠の沢町は、北光小学校への距離が２ｋｍを超えることから、スクールバスの導入を検討します。
- 北星小学校の校区では、啓北町を北光小学校の校区へ変更し、豊川町（１丁目除く）及び桜木町の全域を明倫中学校の校区へ変更します。

  ※令和 16 年度の啓北中学校から明倫中学校への校区変更（桜木町 1、４丁目及び豊川町２丁目）について、経過措置として、啓北中在校生（2、３年生）は、引き続き啓北中学校に通学できることとします。
  また、校区変更となる啓北町の児童は、希望する場合、先行して北光小学校へ入学することを認めます。

【中学校】
- 啓北中学校は小規模校で推移する見込みですが、クラス替えが可能な学級数は維持されるため現状維持とします。

小学校	R7	R13	R16	R18
日新小学校	267	152	R16 統合	—
	11	6		
豊川小学校	302	212	R16 統合	—
	12	9		
北星小学校	270	202	382	366
	12	8	13	12
北光小学校	498	319	404	386
	18	13	12	12
中学校	R7	R13	R16	R18
明倫中学校	340	259	410	354
	11	9	13	11
啓北中学校	359	381	291	251
	11	12	9	7

上段：児童生徒数　下段：学級数
※普通学級の数値（推計）



Cブロック

■現状

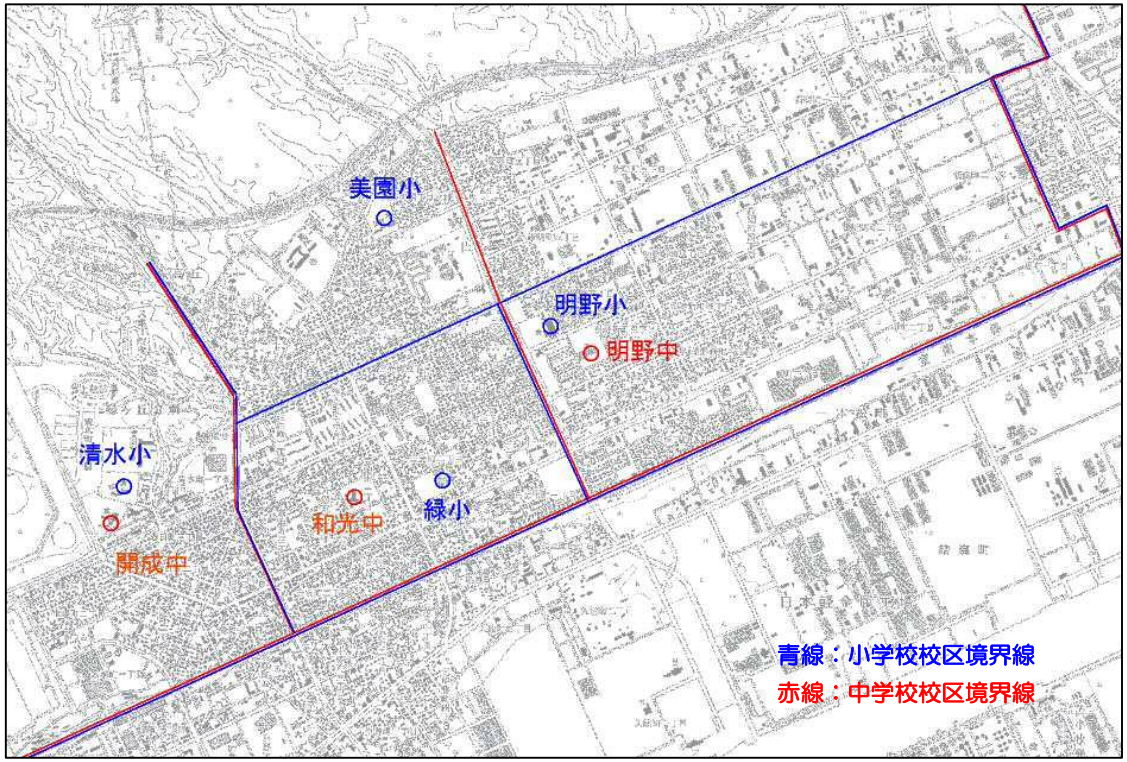
現在、小学校は、清水小学校、明野小学校、美園小学校、緑小学校の４校ありますが、既に清水小学校、明野小学校の一部学年では、クラス替えができない状況になっています。また、建物の老朽化が進んでおり、清水小学校や美園小学校は、改築の時期が迫っています。さらに、美園小学校の進学先が、明野中学校と和光中学校に分かれているため、小中連携教育や学校・家庭・地域の連携が図りにくく、コミュニティ・スクールの運営に課題が生じています。

中学校は、開成中学校、和光中学校、明野中学校の３校ありますが、開成中学校では、既に一部学年でクラス替えができない状態であるほか、改築の時期が迫っています。明野中学校についても、小規模校の状況にあり、将来的に効率的な運営が難しくなる懸念があります。

小学校	R1	R7	R13	R18
清水小学校	226	191	166	141
	9	8	6	6
美園小学校	445	359	222	189
	15	13	9	6
明野小学校	353	239	171	146
	12	10	8	6
緑小学校	494	397	288	244
	17	14	11	12
中学校	R1	R7	R13	R18
和光中学校	479	404	311	236
	14	12	10	8
開成中学校	130	99	90	68
	5	4	3	3
明野中学校	243	206	148	112
	8	6	6	5

上段：児童生徒数　下段：学級数

※普通学級の数値（推計）

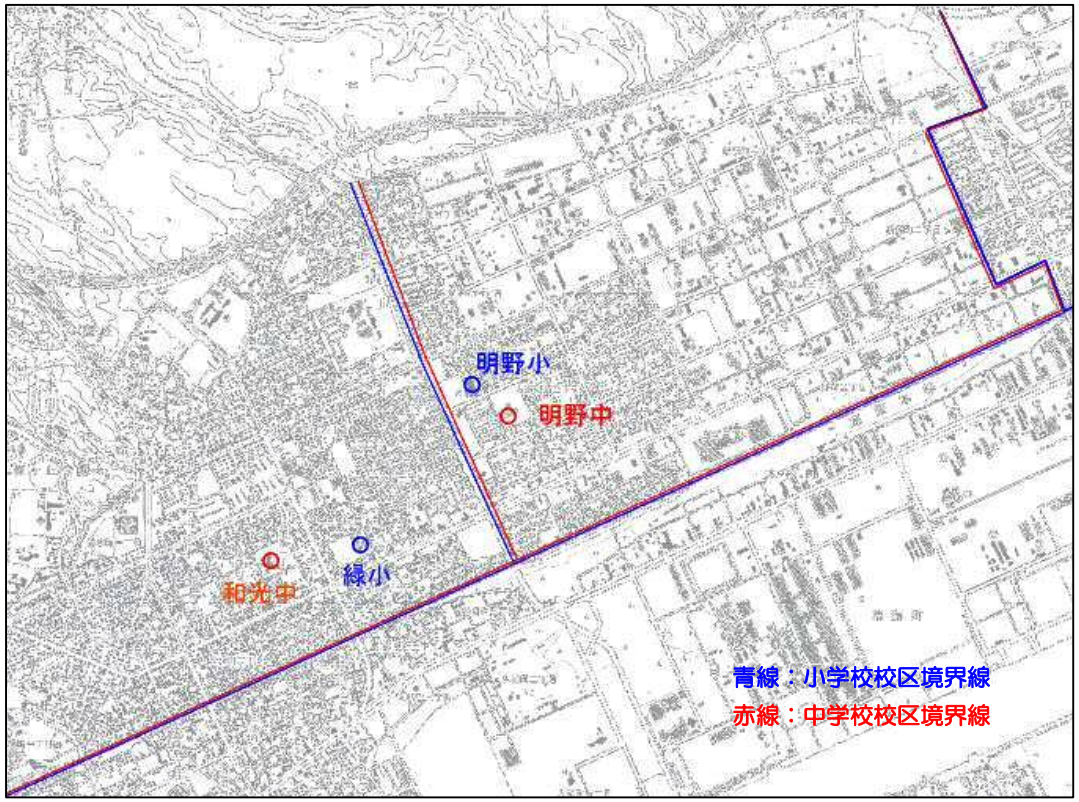


方針

【小学校】
・清水小学校及び美園小学校を緑小学校へ統合します。
・美園小学校統合時に、新明町を明野小学校の校区へ変更します。
※新明町の児童は、希望する場合、先行して明野小学校へ入学することを認めます。
・明野小学校は、小規模校で推移しますが、改築時期が先であることなどを踏まえ、現状維持とします。
・木場町、緑町、清水町、美園町などの一部地域において、緑小学校までの距離が２ｋｍを超えることから、スクールバスの導入を検討します。
【中学校】
・開成中学校を和光中学校へ統合します。
・明野中学校は小規模校で推移する見込みですが、統廃合を２回経験する生徒が生じないよう、現状維持とします。なお、令和 22 年度頃の統合に向けて引き続き検討します。

小学校	R7	R14	R15	R18
清水小学校	191	161	153	R18 統合
	8	6	6	
美園小学校	359	R14 統合	—	—
	13			
明野小学校	239	217	206	190
	10	8	7	6
緑小学校	397	447	423	530
	14	16	14	18
中学校	R7	R14	R15	R18
和光中学校	404	298	371	305
	12	9	12	10
開成中学校	99	86	R15 統合	—
	4	3		
明野中学校	206	142	137	112
	6	6	6	5

上段：児童生徒数　下段：学級数
※普通学級の数値（推計）



Dブロック

■現状

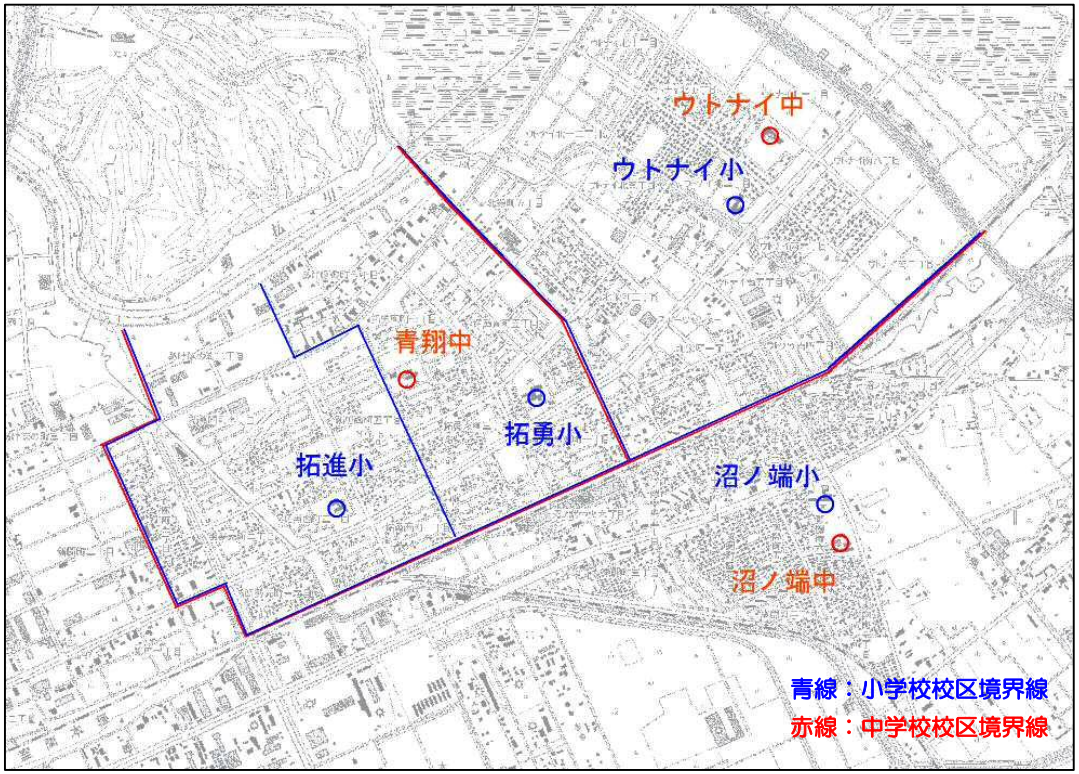
現在、小学校は、沼ノ端小学校、拓勇小学校、ウトナイ小学校、拓進小学校の４校あります。ウトナイ小学校は、現在、大規模校となっていますが、徐々に児童数は減少し、数年後には全ての小学校において、適正規模校で推移していく見込みです。

中学校は、沼ノ端中学校、青翔中学校、ウトナイ中学校の３校あります。沼ノ端中学校は、既に小規模校となっていますが、全ての学年でクラス替えは可能な状態を維持できる見込みです。また、青翔中学校、ウトナイ中学校は、当面適正規模を維持していく見込みです。

小学校	R1	R7	R13	R18
沼ノ端小学校	336	344	392	333
	12	13	13	12
拓勇小学校	766	605	383	327
	24	20	14	12
ウトナイ小学校	825	855	593	505
	25	27	21	18
拓進小学校	770	606	369	313
	23	20	14	12
中学校	R1	R7	R13	R18
沼ノ端中学校	147	153	186	141
	6	6	7	7
青翔中学校	728	736	540	410
	21	21	17	13
ウトナイ中学校	366	424	404	307
	11	12	13	10

上段：児童生徒数　下段：学級数

※普通学級の数値（推計）



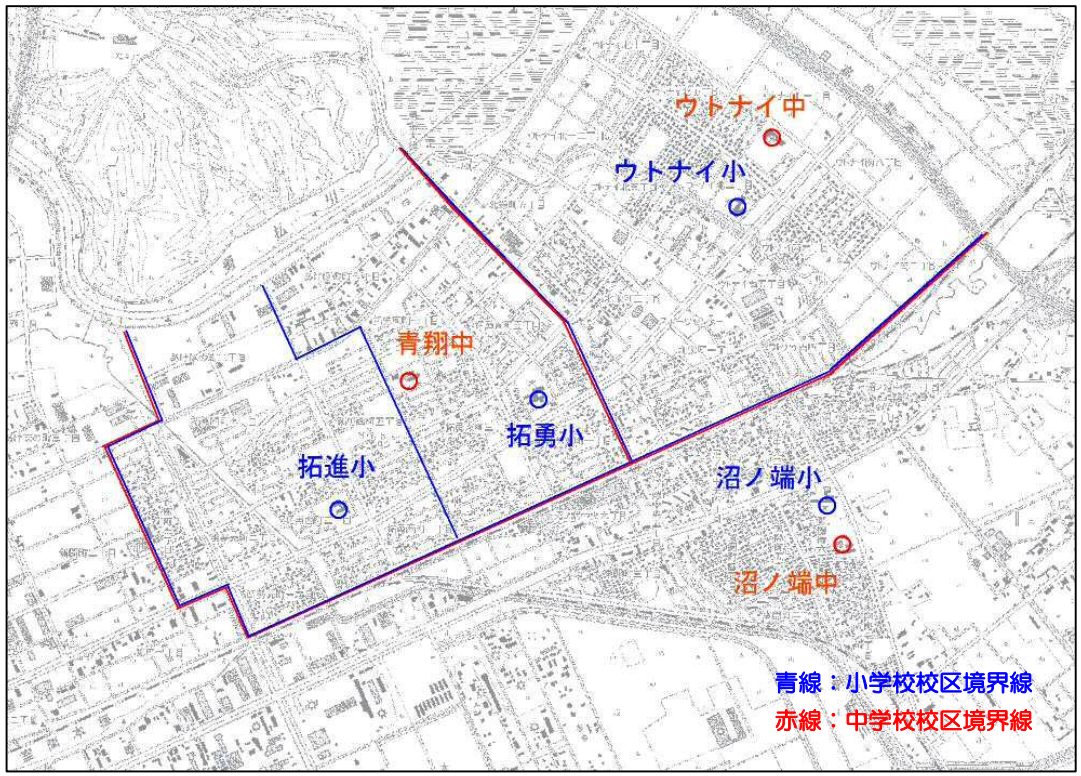
方針

【小学校】
・いずれも適正規模であることから、現状維持とします。

【中学校】
・青翔中学校及びウトナイ中学校は適正規模であることから、現状維持とします。
・沼ノ端中学校は、小規模校で推移する見込みですが、クラス替えが可能な学級数は維持されること、近隣のウトナイ中学校と統合する場合は、線路を越えての通学となり、通学の安全性の確保に課題があることから、現状維持とします。

小学校	R1	R7	R13	R18
沼ノ端小学校	336	344	392	333
	12	13	13	12
拓勇小学校	766	605	383	327
	24	20	14	12
ウトナイ小学校	825	855	593	505
	25	27	21	18
拓進小学校	770	606	369	313
	23	20	14	12
中学校	R1	R7	R13	R18
沼ノ端中学校	147	153	186	141
	6	6	7	7
青翔中学校	728	736	540	410
	21	21	17	13
ウトナイ中学校	366	424	404	307
	11	12	13	10

上段：児童生徒数　下段：学級数
※普通学級の数値（推計）



Eブロック

■現状

現在、小学校は、糸井小学校、大成小学校、苫小牧西小学校、苫小牧東小学校、若草小学校の５校ありますが、いずれの学校も、既に小規模校となっており、特に苫小牧東小学校や苫小牧西小学校、糸井小学校は、１学年１学級となっています。

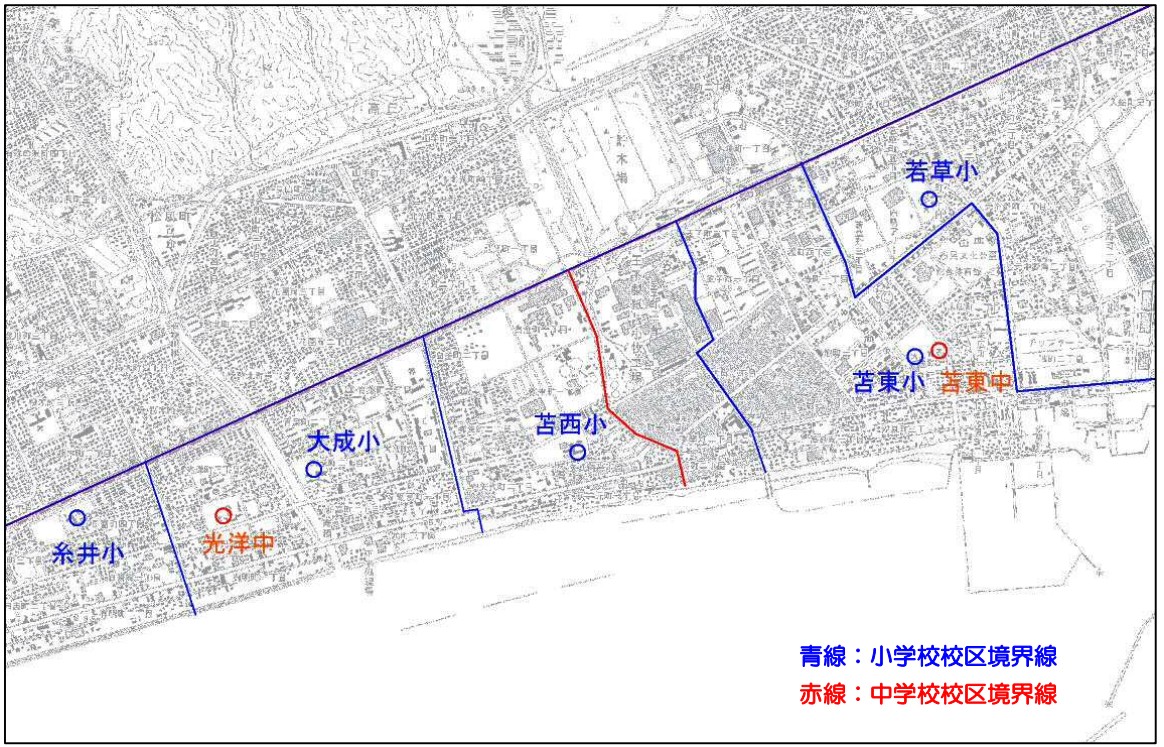
また、苫小牧西小学校は、進学先が、苫小牧東中学校と光洋中学校に分かれており、小学校と中学校の校区が、一致していないことから、小中連携教育や学校・家庭・地域の連携が図りにくく、コミュニティ・スクールの運営に課題が生じているほか、糸井小学校は、大規模改修の必要性が高まっています。

中学校は、光洋中学校と苫小牧東中学校の２校あり、苫小牧東中学校は、小規模校となっています。

小学校	R1	R7	R13	R18
苫小牧東小学校	186	171	148	126
	6	6	6	6
苫小牧西小学校	200	151	147	125
	8	6	6	6
若草小学校	289	185	193	165
	11	7	9	7
大成小学校	344	222	160	136
	12	10	6	6
糸井小学校	206	145	116	99
	7	6	6	6
中学校	R1	R7	R13	R18
苫小牧東中学校	286	219	185	141
	9	7	7	6
光洋中学校	388	304	242	183
	11	9	8	6

上段：児童生徒数　下段：学級数

※普通学級の数値（推計）



方針

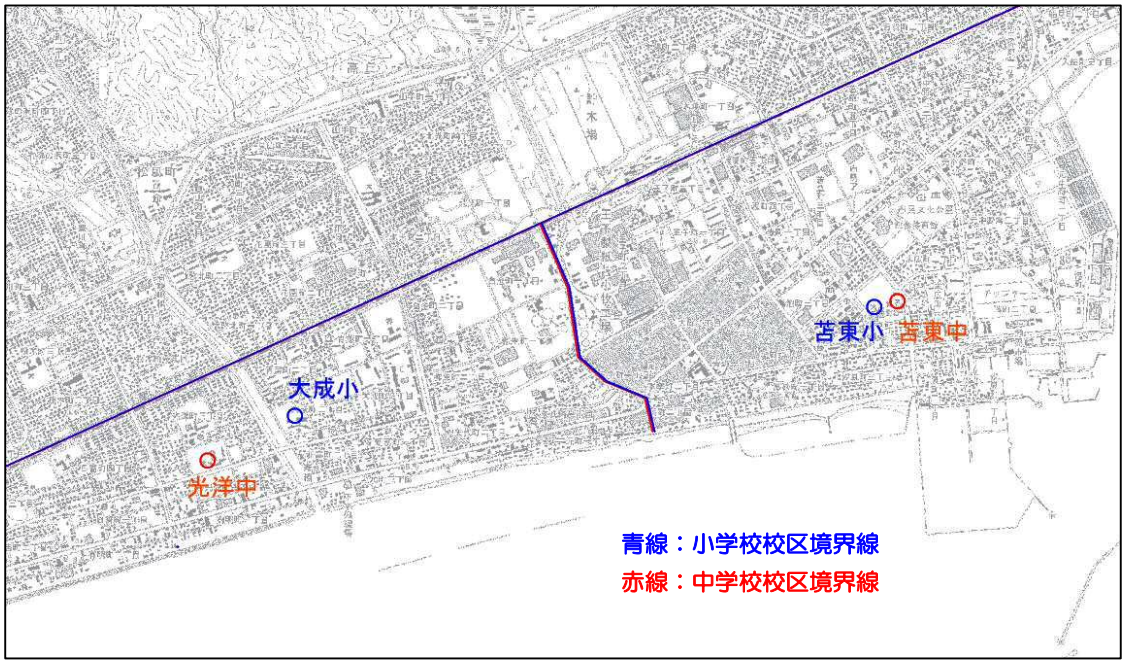
【小学校】
- 糸井小学校を大成小学校へ統合します。
- 若草小学校を苫小牧東小学校へ統合します。
- 苫小牧西小学校を苫小牧東小学校と大成小学校へ統合します。
- 苫小牧西小学校統合時に、苫小牧東中学校区を苫小牧東小校区、光洋中学校区を大成小学校区とします。

※苫小牧東中学校区の児童は、希望する場合、先行して苫小牧東小学校へ入学することを認めます。
- 永福町、糸井地区から大成小学校、船見町から苫小牧東小学校への距離は２ｋｍを超えるため、スクールバスの導入を検討します。

【中学校】
- 中学校はいずれも小規模校ですが、校区や全市的な学校配置のバランスを考慮し、現状維持とします。

小学校	R7	R13	R15	R18
苫小牧東小学校	171	148	349	321
	6	6	13	13
苫小牧西小学校	151	147	R15統合	―
	6	6		
若草小学校	185	193	R15統合	―
	7	9		
大成小学校	222	160	358	330
	10	6	13	13
糸井小学校	145	116	R15統合	―
	6	6		
中学校	R7	R13	R15	R18
苫小牧東中学校	219	185	172	141
	7	7	7	6
光洋中学校	304	242	224	183
	9	8	8	6

上段：児童生徒数　下段：学級数
※普通学級の数値（推計）



Ｚブロック

■現状・方針

５つのブロック以外の植苗地区・勇払地区・樽前地区にある学校については、統廃合の検討対象外とし、地域の特色や少人数の特性を生かした学校運営を継続していきます。

現在、小学校は、小規模特認校の樽前小学校、勇払小学校の２校がありますが、樽前小学校については、学区がなく、市内どこからでも通学させることができ、自然豊かな環境で教育を受けることができるという特色を有しています。勇払小学校は、既に勇払中学校と合わせて義務教育学校とすることが決定しており、令和１２年度に開校予定となっています。

また、現在唯一の義務教育学校として、植苗小中学校が令和５年度に開校し、９年間の義務教育を一貫して行う学校という特色を生かしながら、学校運営を行っています。

小学校	R1	R7	R13	R18
樽前小学校	30	24	30	30
	3	3	3	3
勇払小学校	84	39	29	24
	6	4	4	4
植苗小中学校（前期課程）	55	36	41	34
	4	5	5	4
中学校	R1	R7	R13	R18
勇払中学校	63	27	18	13
	3	3	3	3
植苗小中学校（後期課程）	21	26	17	12
	3	3	3	3



上段：児童生徒数　下段：学級数

※普通学級の数値（推計）

樽前小学校は、各学年５人の特認入学を想定

学校再編の先に・・

学校規模の適正化や統廃合による学校数の減は、決して市教委が目指すゴールではありません。

未来の子どもたちのために「魅力ある学校づくり」を目指します。

『未来への決意』

１　快適で安全な学びの環境整備

⇒学校施設整備計画を再構築し、老朽化対策やバリアフリー化など施設整備を着実に進めます。

⇒子どもたちが安全安心に学校生活を送ることができるよう、エアコン設置を最優先に進めます。

２　個に寄り添う支援体制の強化

⇒教員の欠員解消や若手教員の育成、専科教員の配置など組織体制の充実に努めます。

⇒学級規模や学習状況に応じた支援員の優先配置のほか、介添員、不登校対策支援員など専門的スタッフによる人的支援を強化します。

３　子どもたちの成長を地域で支える仕組みづくり

⇒保護者負担の軽減（教材費や学校給食費など）に向けた検討を進め、子育て家庭の経済的な安心を支えます。

⇒コミュニティ・スクールや放課後活動への支援など、地域、学校間の格差なく、すべての子どもたちに豊かな体験の機会を提供します。

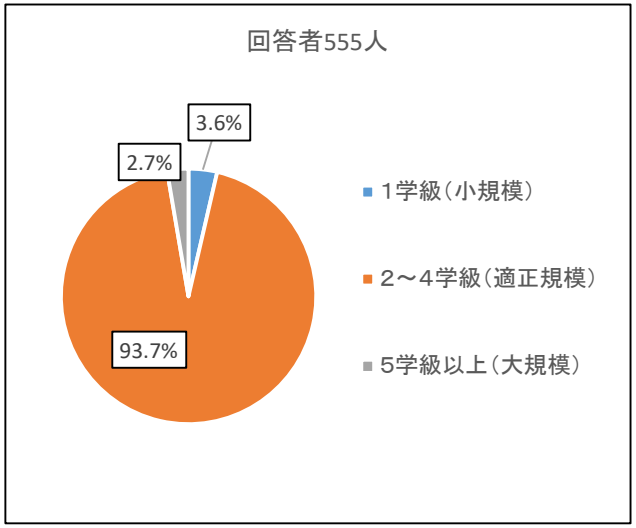
＜資料編＞

１．市民意識調査の結果（未就学児及び在校生保護者アンケート）

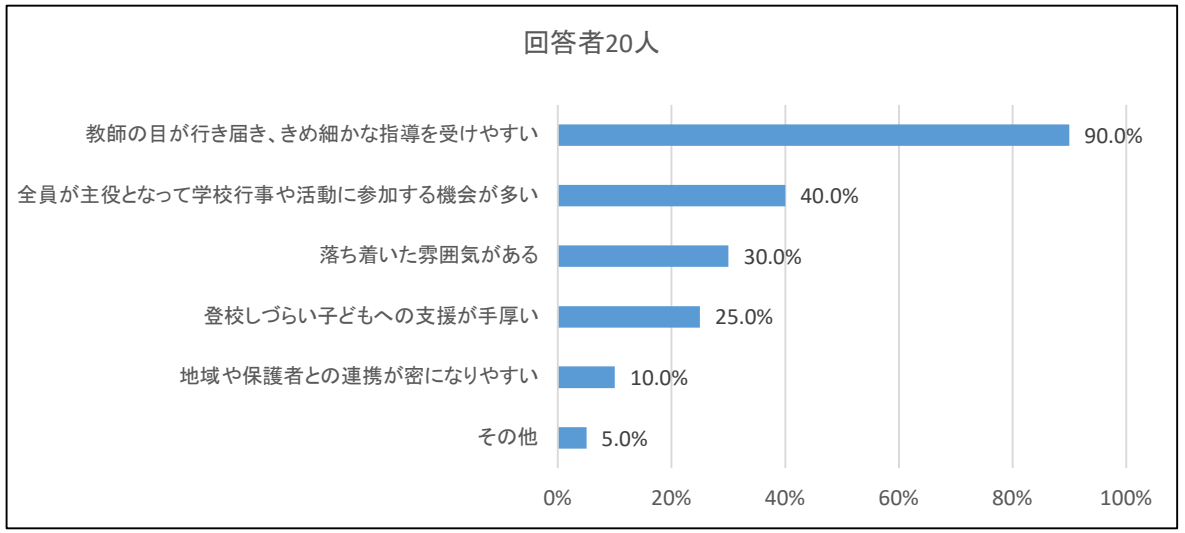
・未就学児の保護者に対するアンケート

調査対象	令和７年１０月１日時点において未就学の子をもつ保護者
抽出方法	住民基本台帳から無作為抽出
調査実施期間	令和７年１１月１９日～１２月１９日
調査方法	アンケート用紙を郵送し、オンラインまたは郵送にて回答
配付数	1,200 世帯
回答数	555 世帯
回答率	46.2%

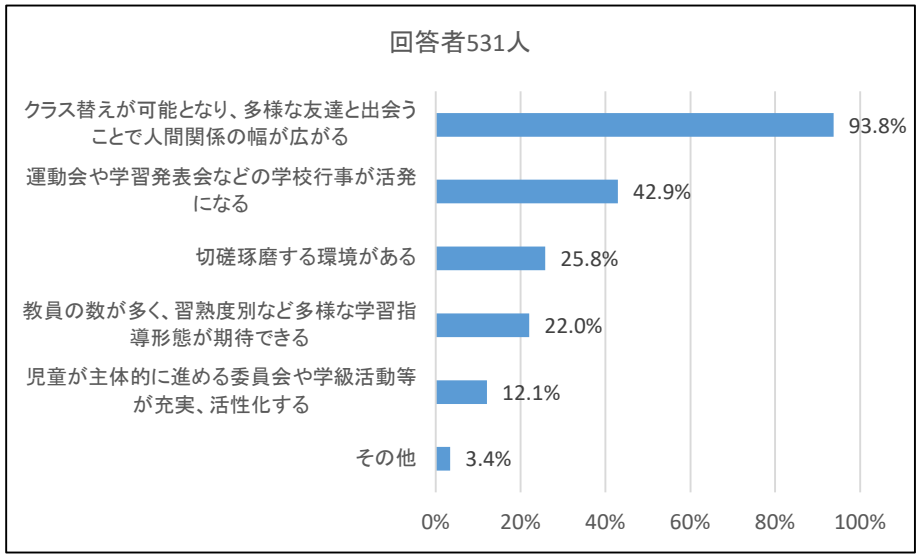
（１）小学校において１学年あたりの望ましい学級数は何学級ですか。



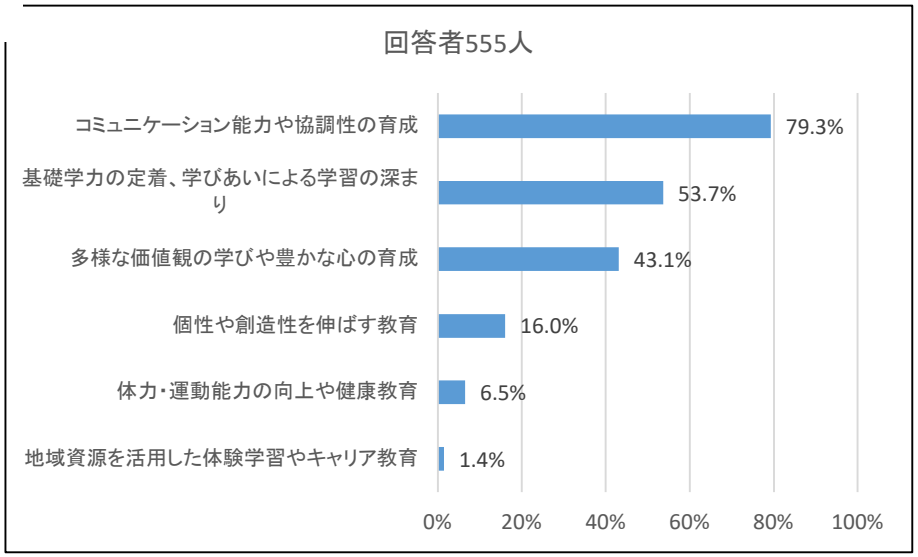
（２）（１）で「小規模」と回答した方のみ回答。小規模であることについてメリットだと感じる点は何ですか。　（ふたつ選択）



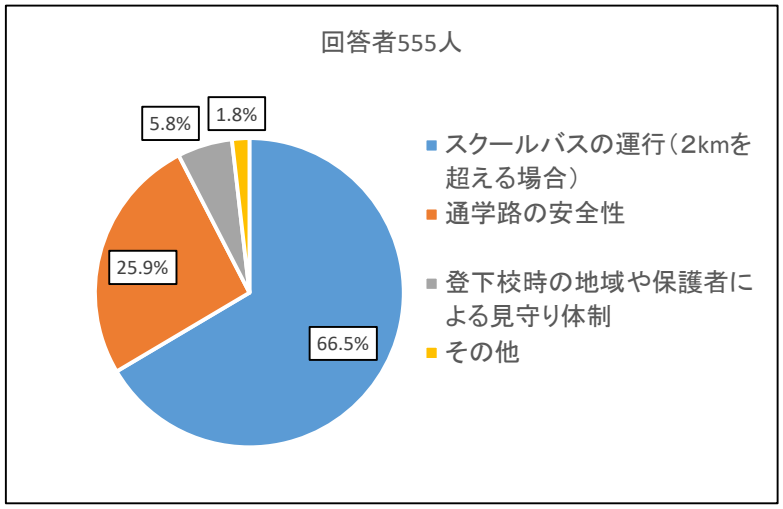
（３）（１）で「適正規模以上」と回答した方のみ回答。適正規模以上であることについて、メリットだと感じる点は何ですか。（ふたつ選択）



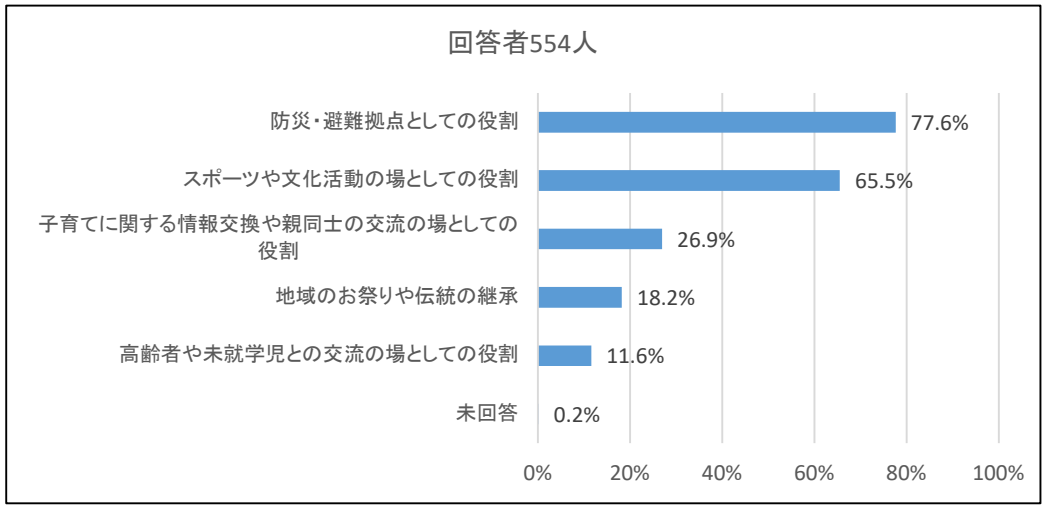
（４）小学校において最も重視したいことは何ですか。（ふたつ選択）



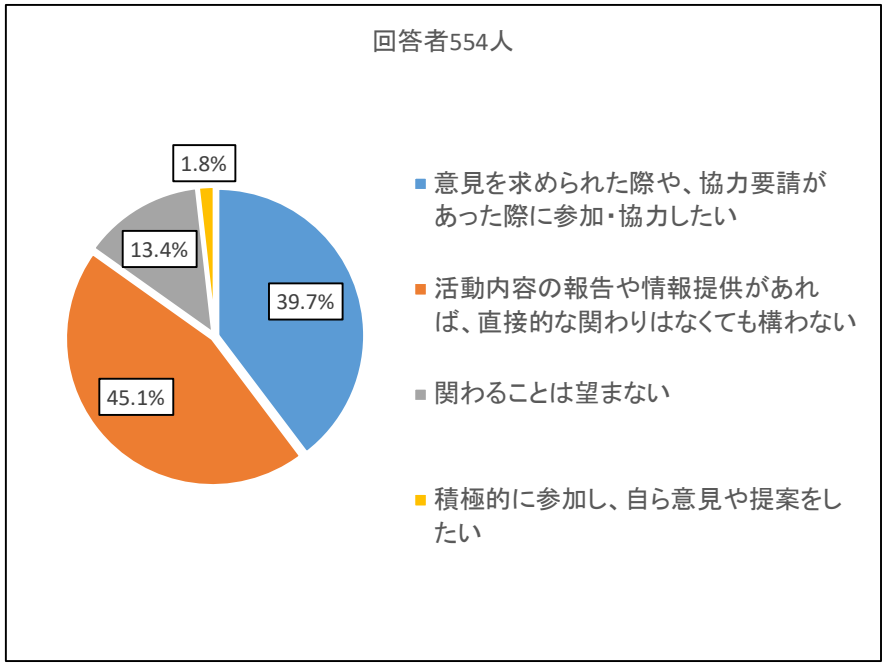
（５）小学校が統合・再編され、通学距離が長くなることが考えられますが、統合後の通学に関してどのような支援が必要だと考えますか。



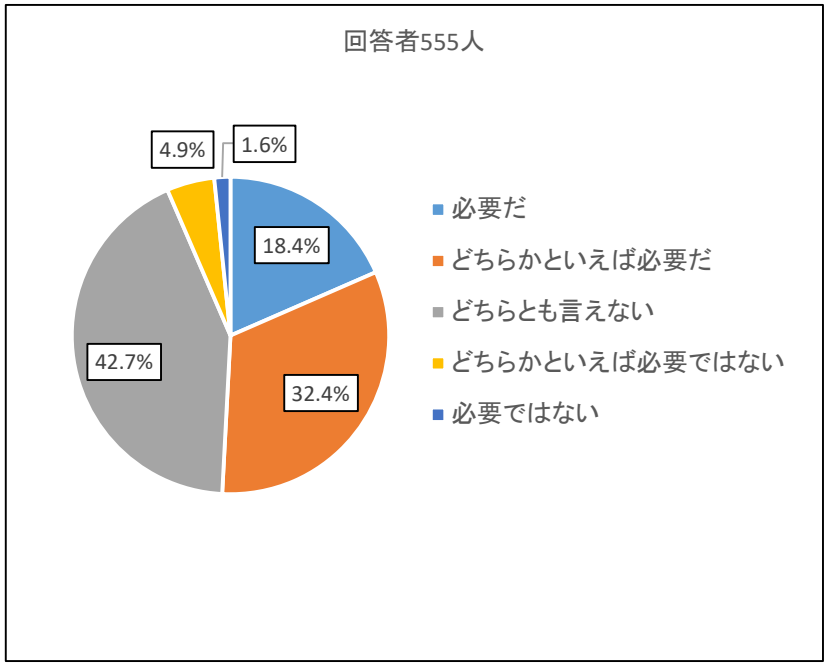
（６）小学校が地域コミュニティの中で果たすべき役割として、重要だと考えることは何ですか。（ふたつ選択）



（7）保護者として学校運営やＰＴＡにどの程度の関与を望みますか。



（8）教育委員会が進める学校の学校再編（統廃合を含む）について、必要だと感じますか。



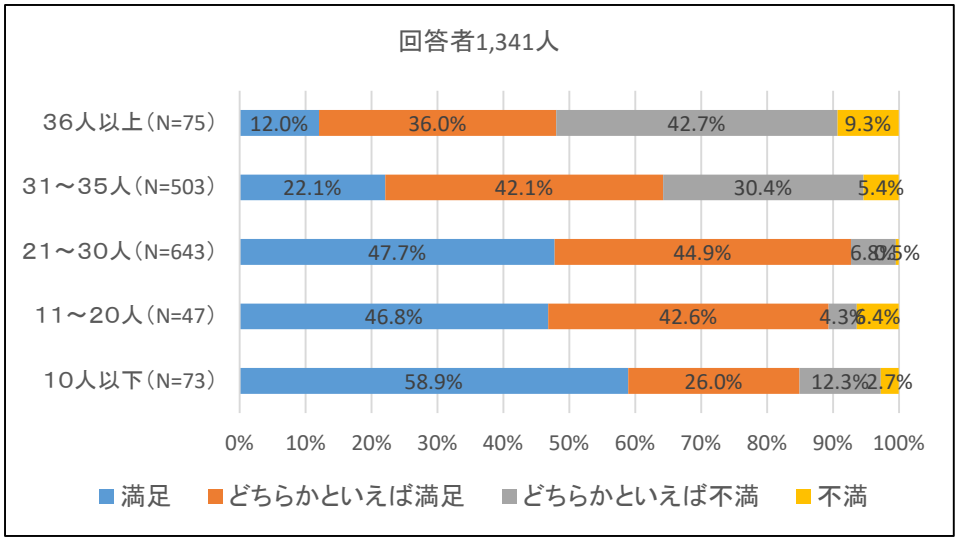
（9）学校の統廃合について、上記以外で特に教育委員会に伝えておきたいご意見やご要望がありましたら、ご自由にご記入ください。

- 小規模校には通わせたくないので、積極的に進めてほしい。
- なるならなるで仕方がないが、早めに教えて欲しい。
- ひとつの学校に対する維持費と通学する児童の人数を考えれば統廃合を積極的に進め、廃校した学校をグランピング施設や、防災備蓄倉庫、こどもたちが遊べる屋内遊戯施設等などに活用すればいい。
- 子供達が安心して通える、（生命の危機に脅かされない）学校環境が整うのであれば、統廃合をするのは構わないと思います。
- 子供が２歳なので、小学校に通わせる想像がまだついていませんが、登下校が心配と感じています。また、教員の友人がいますが、皆さん業務が多く大変そうです。教員の給料アップや福利厚生の見直しも、子供達の充実した学校生活に繋がるのではと思います。
- 通える小学校を選べるようにしてほしい。
- 児童数が少なくなった学校を、樽前小学校のような特認校にし、少人数での指導を希望するお子さんや、特認校ならではの特色を生かした教育を希望する保護者の方を対象とする方法もあると思います。
- 校区が広くなってしまうことにより、子ども達の行動範囲も広がってしまう。低・中学年だとあまり離れた所に遊びに行かれるのは心配。
- 苫小牧市内の学校は再編は必要ないと思います。
- 小規模のメリットもあればデメリットもある。手厚く支援してくださることは嬉しいが、社会に出ていくことを考えると、様々な人と出会い、経験してほしい気持ちもある。
- 小規模であっても小学校は地域に残したほうが良いと考えます。地域の小学校に自分の足で通い、地域を大切に思う気持ちをはぐくんでほしいです。多くの人とかかわるのは中学校からで十分だと思います。遅くないです。
- 小学校ではなく中学校の事ですが、過去に弥生中学校が廃校した際、途中で学校が変わる事に苦痛、大変さを感じた生徒の話をいくつか聞きました。もし、今後統廃合があるのであれば、生徒の精神面等も十分に考慮していただき、統廃合後のケアもしていただきたいと思います。
- 小学生の時閉校を経験しました。スクールバスでの通学はとても負担が大きかったです。
- エアコンや洋式温水便座をはじめ、老朽化への対策をお願いしたいです。

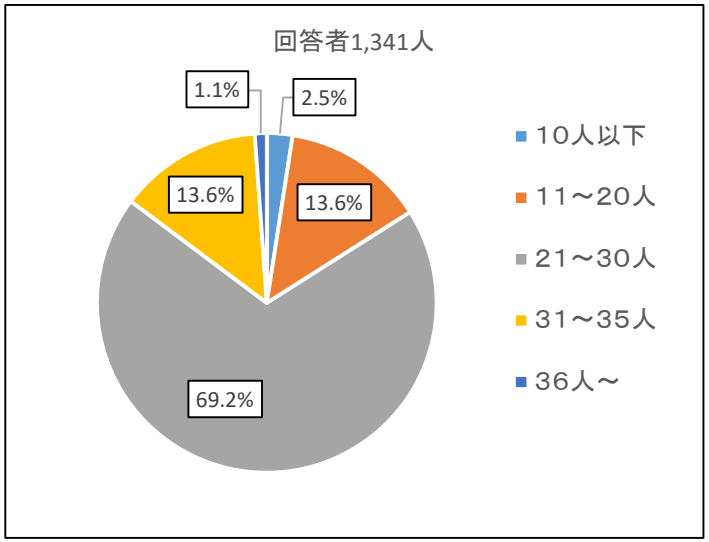
・在校生の保護者に対するアンケート

調査対象	令和７年１１月２１日時点において市内の小中学校に通う子を持つ保護者
抽出方法	さくら連絡網登録者
調査実施期間	令和７年１１月２１日～１２月１９日
調査方法	さくら連絡網でアンケート URL を配信し、オンラインにて回答
配付数	約 8,500 世帯
回答数	1,341 世帯
回答率	約 15.7%

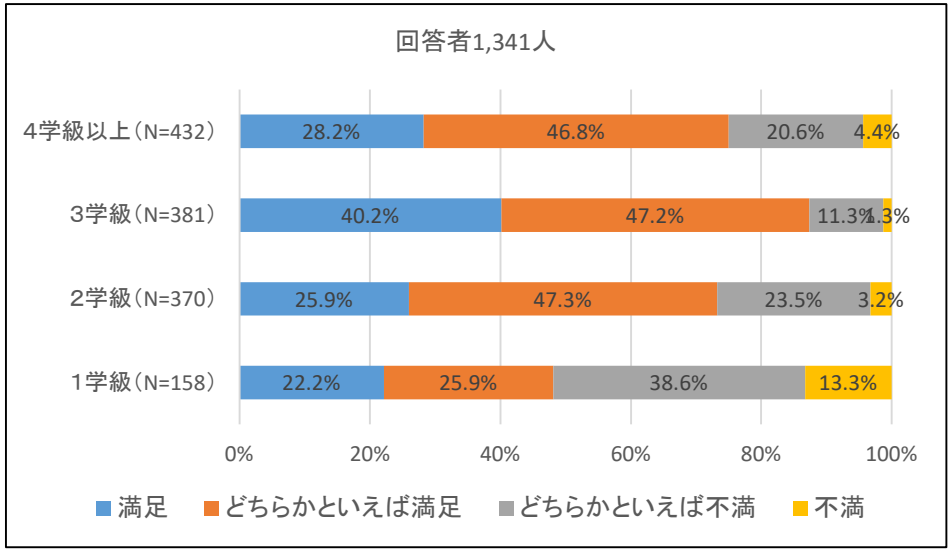
（１）お子様が通う学級の人数は何人ですか。また、その人数に満足していますか。



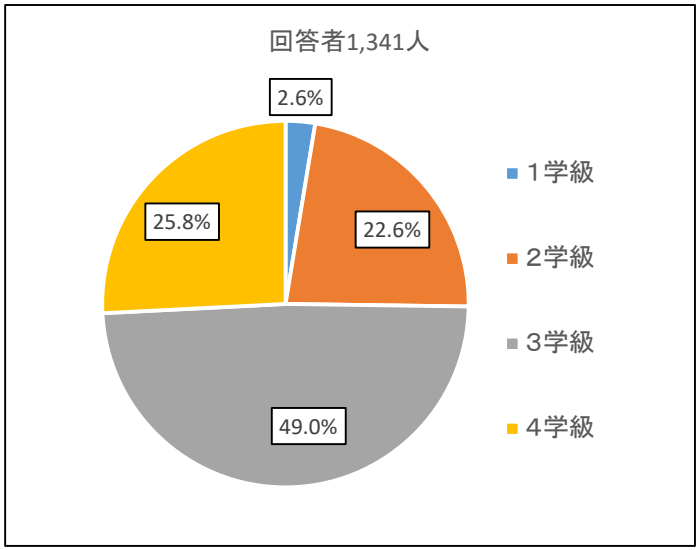
（２）１学級における理想の人数は何人ですか。



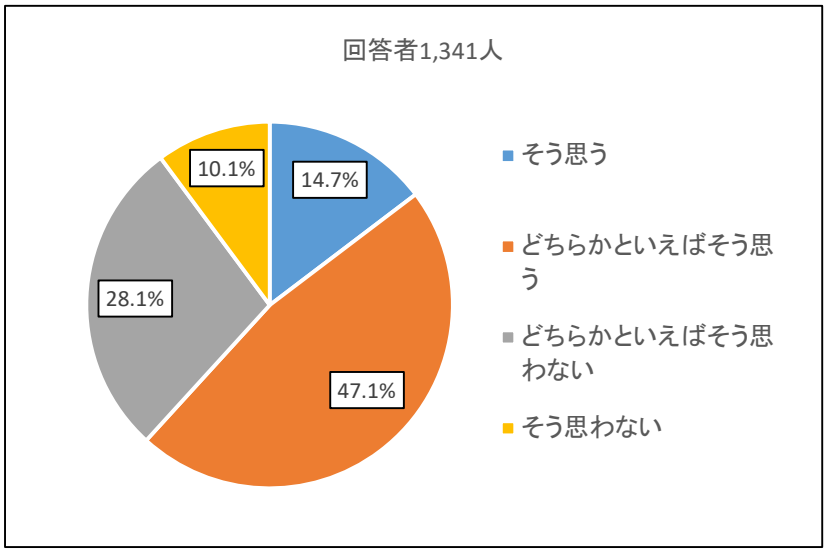
（3）お子様が通う学年は何学級ですか。また、その学級数に満足していますか。



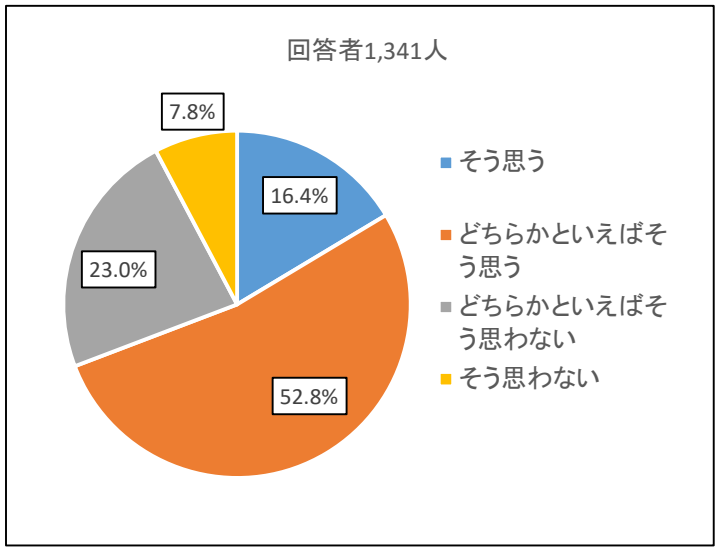
（4）教育効果を最大限に高めるために望ましい学級数を教えてください。



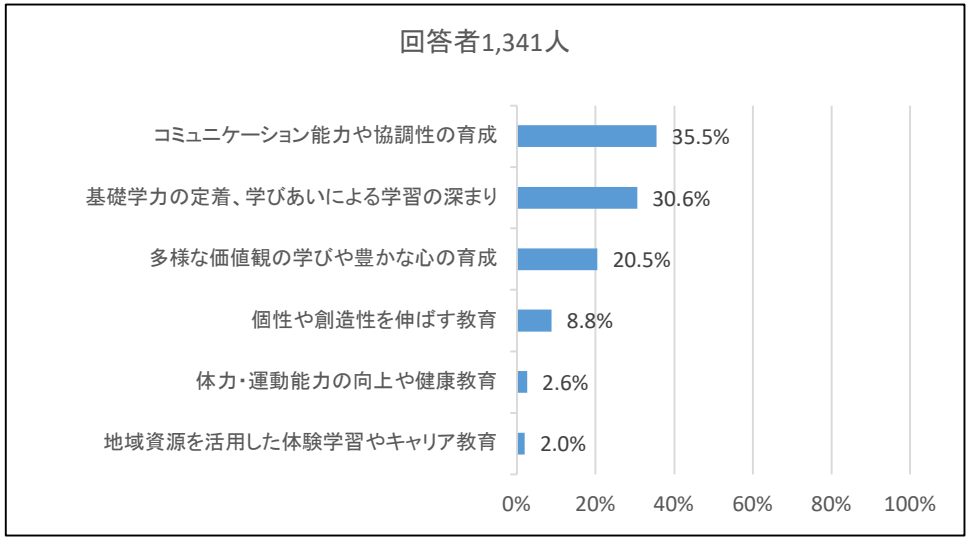
（5）児童・生徒一人ひとりに対する「きめ細やかな指導」は十分に行われていると感じますか。



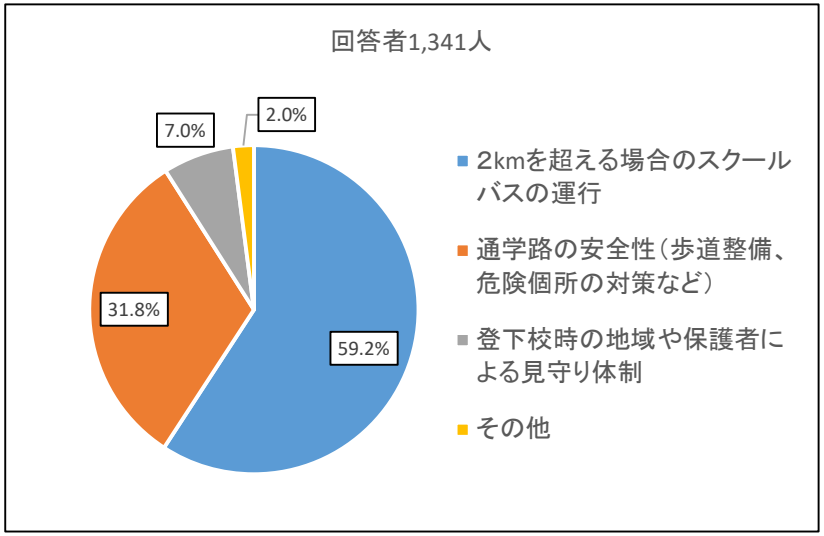
（6）友人関係や社会性（多様な考え方に触れ、協力し合い、ルールを守ること）を育む環境は十分だと思いますか。



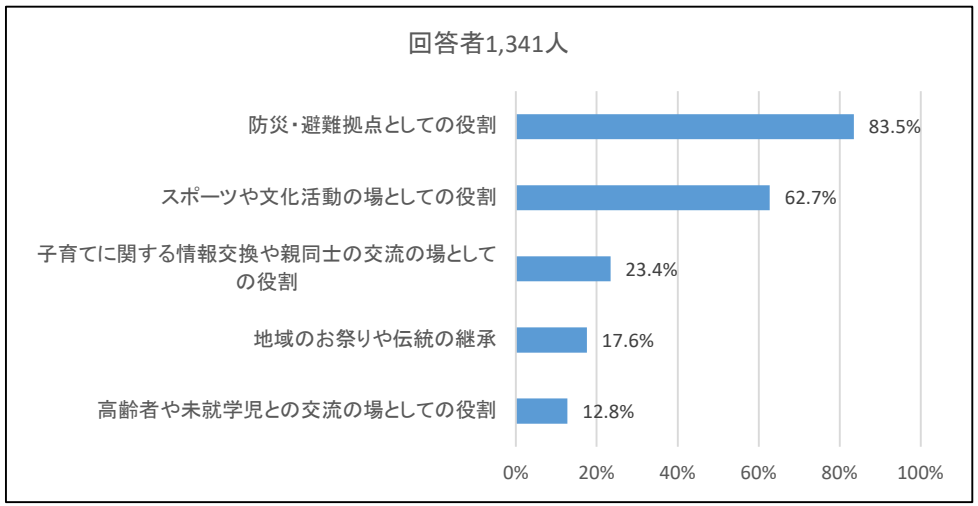
（7）学校教育で最も重視したいことは何ですか。（ふたつ選択）



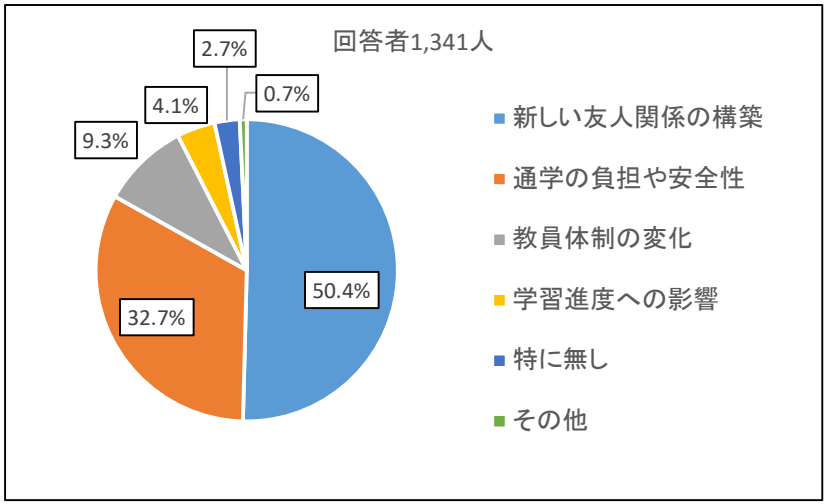
（8）学校が統合・再編され、通学距離が長くなることが考えられますが、統合後の通学に関してどのような支援が必要だと考えますか。



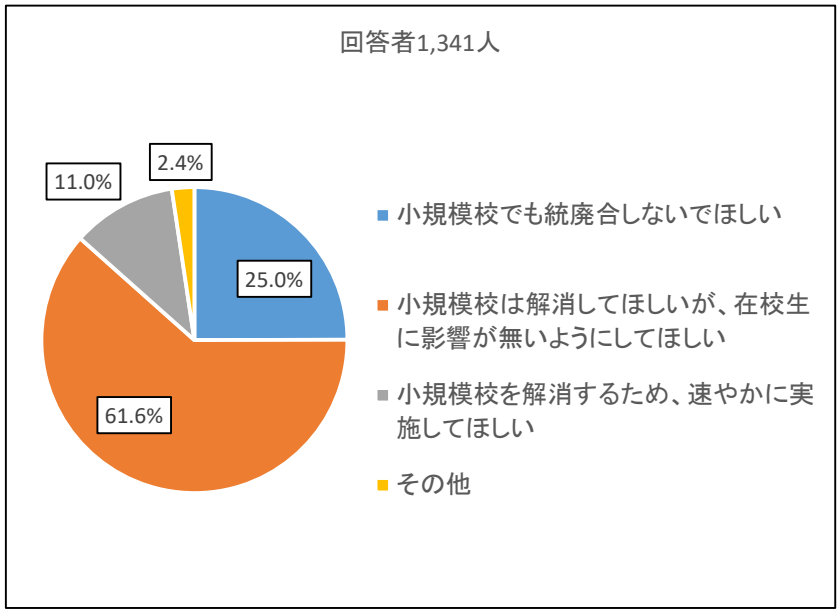
（9）学校が地域コミュニティの中で果たすべき役割として、最も重要だと考えることは何ですか。（ふたつ選択）



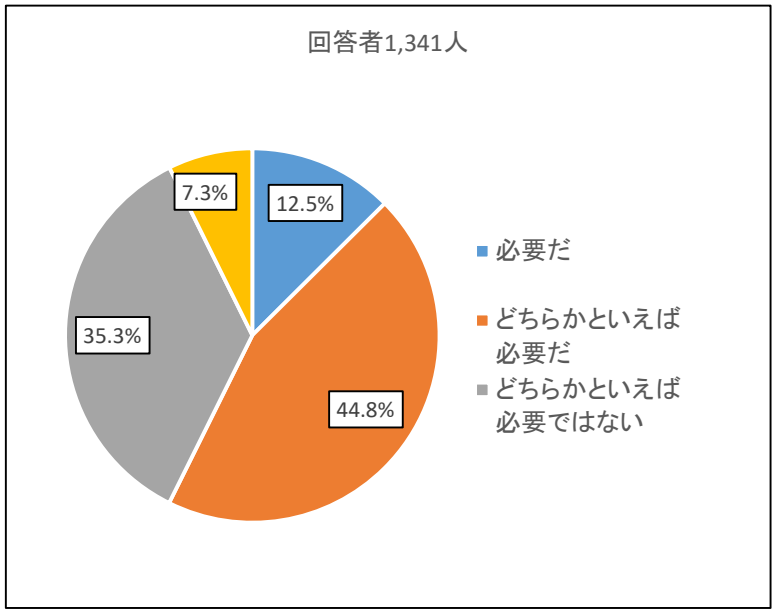
（10）学校再編（統廃合を含む）により、お子様が新しい学校環境へ移行する際、最も心配する点は何ですか。



（11）教育委員会が、学校統廃合を決定・実施するまでの期間について、希望に最も近いものを選んでください。



（12）学校再編（統廃合を含む）について、必要だと感じますか。



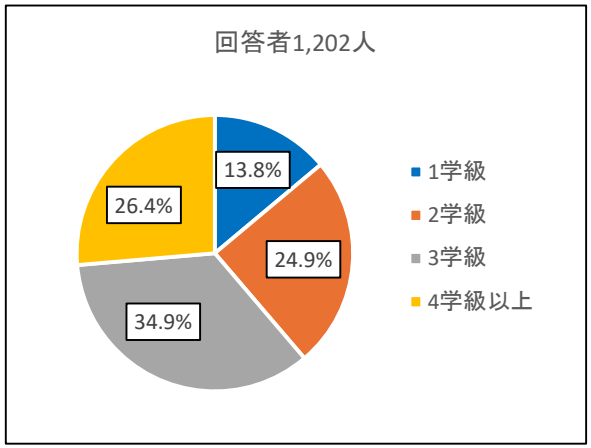
（13）学校の統廃合について、上記以外で特に教育委員会に伝えておきたいご意見やご要望がありましたら、ご自由にご記入ください。

- 運動会などもう少し競技を増やしたりしてほしい。
- 統合する事で人数が増え、今までとは違う環境から様々な子が集まることにより、子供同士の関わりの中で暴力や暴言等で傷つく事やいじめがないように先生方の見守りがあればいいなと思います。
- 少子化なので仕方ないと思います。
- 教員の数も足りていないとよく耳にします。統廃合を進めることにより、少しでも解決につながるのであれば、それもまた子ども達のために大切だと思います。
- いじめ問題や少人数が学びやすい子が通いやすいように、小規模小中学校への越境への募集や選択肢があれば助かります。
- 統廃合を行うのなら学童保育は働く親にとって負担が少なくなるような改革が必要かと思います。
- 通学に関して学校の途中に駐輪場等の設営スペースがあればそこまでの自転車通学が出来るなど臨機応変な対応を望みます。
- 生徒数が多いほうが、色々な考えや行動を学べ、大人になっても、役立つ。また、いじめなどのトラブルも、違う友達を作る事で、カバーができる。
- 統廃合を望まない。ただでさえ少ない人数のコミュニティを分断させることによる子どもへのリスクを考えると、それに対応できるほど教師への期待感は得られない。
- 子供が環境変化に適応できるか不安な部分がある。
- 校舎の老朽化による安全性。
- 小規模校だからと統廃合を行うと、通学の負担が生じるだけではなく、地域が高齢化して活気がなくなることが懸念されます。
- いじめまではいかないが、悪口や嫌がらせ等が横行していて苦しんでいる子も多いので、廃統合をして学級数を増やし、毎年のクラス替え等色々な人との交流を増やす事で同じグループのかたまりが増えないようにして欲しい。先生方の目が行き届いていないように感じるので人クラスあたりの人数を少なくして欲しい。
- 統合はしなくて良いが、その分教育に行き渡るよう、1 クラスの人数を減らして対応して欲しい。
- 全学年 1 学級だが、先生方の目も行き届いているし、友人関係も学年関係なく良好でとても満足している。そのまま統合せず卒業させたいです。

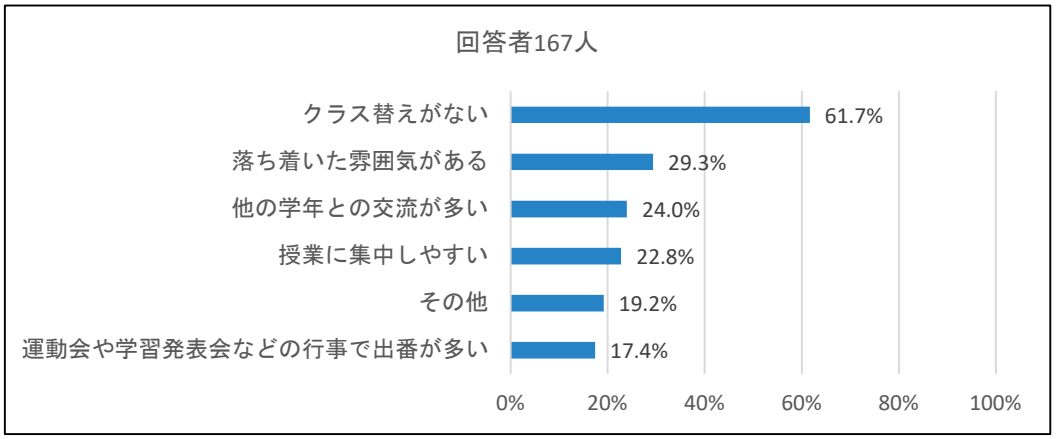
・子どもに対するアンケート

調査対象	小学５年生
調査実施期間	令和８年６月１６日～７月１５日
調査方法	学習用タブレットでアンケートURLを配信し、オンラインにて回答
配付数	1,357人
回答数	1,205人
回答率	88.7%

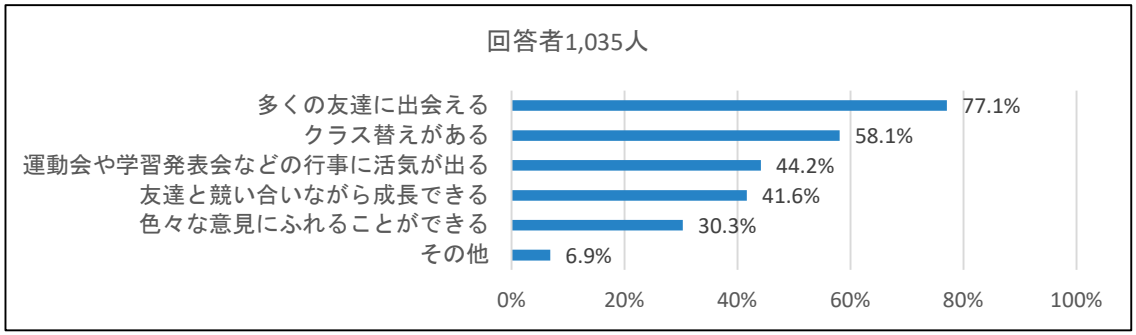
（１）あなたは１学年に何学級あったらよいと思いますか。



（２）１学級がよいと回答した理由は何ですか。（複数回答）

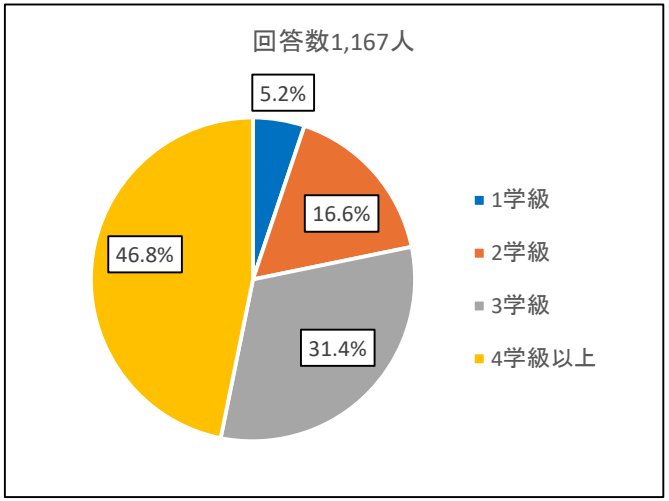


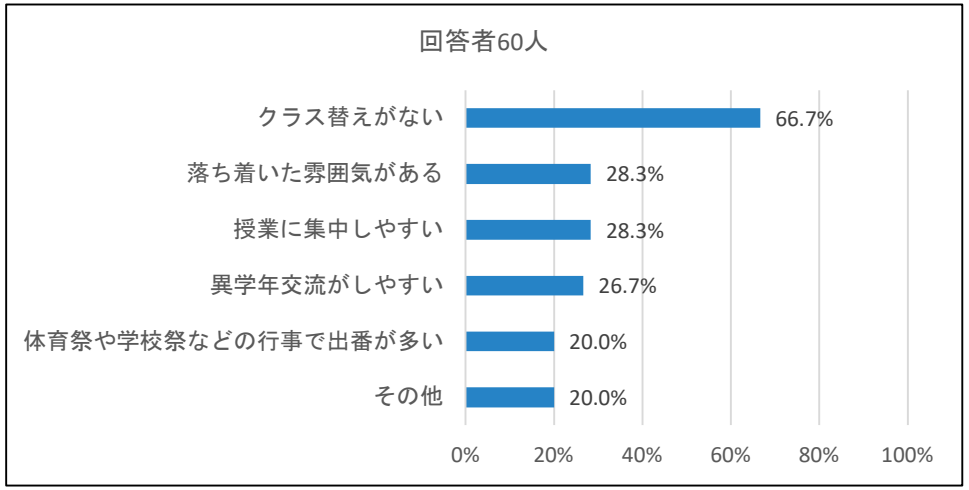
（３）２～４学級以上がよいと回答した理由は何ですか。（複数回答）



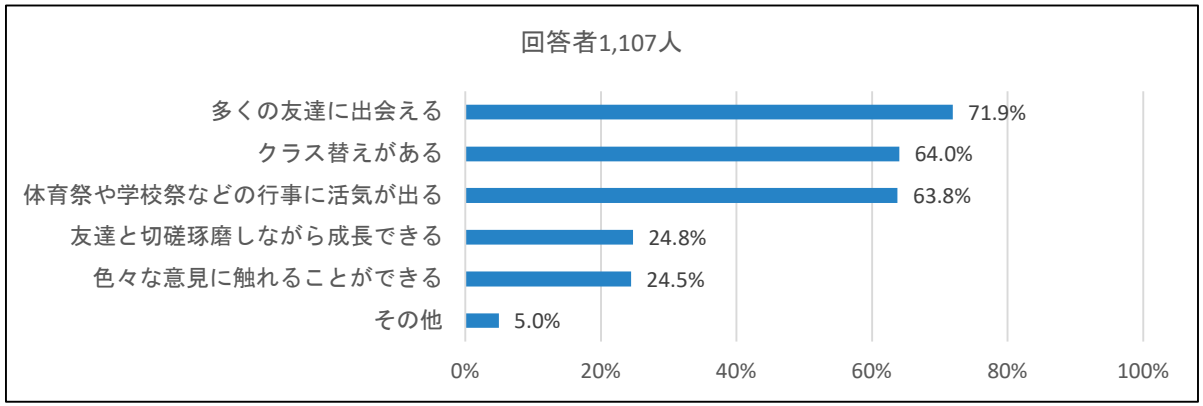
調査対象	中学２年生
調査実施期間	令和８年６月１６日～７月１５日
調査方法	学習用タブレットでアンケートURLを配信し、オンラインにて回答
配付数	1,396人
回答数	1,172人
回答率	83.9%

（１）あなたは１学年に何学級あったらよいと思いますか。　（２）１学級がよいと回答した理由は何ですか。（複数回答）





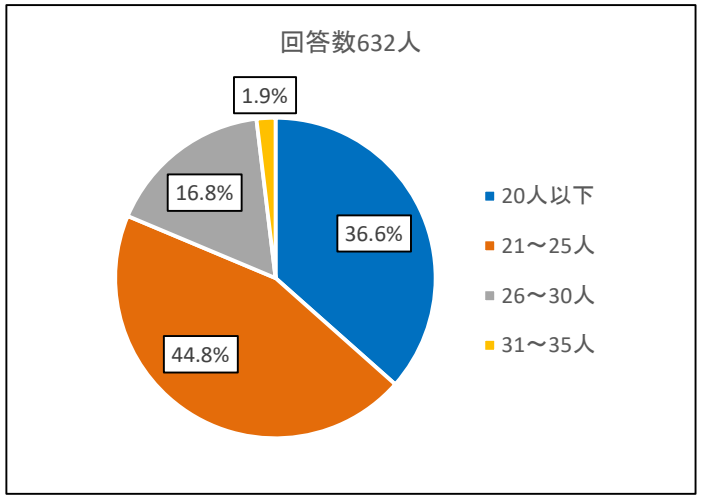
（３）２～４学級以上がよいと回答した理由は何ですか。（複数回答）



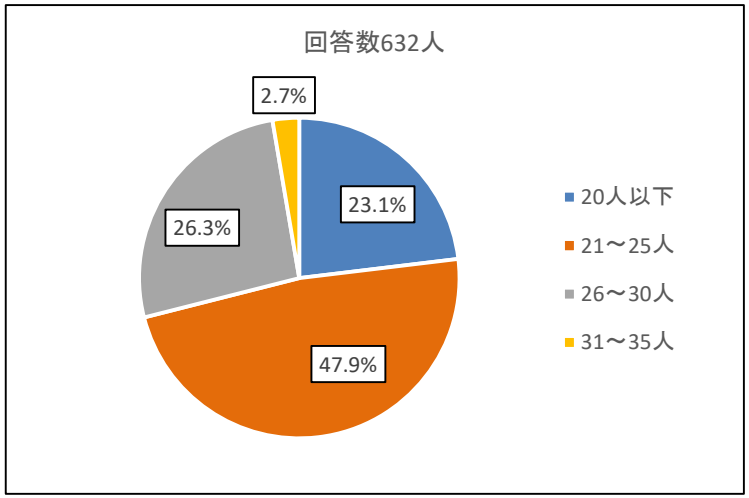
・教員に対するアンケート

調査対象	市内の学校に勤務する教員
調査実施期間	令和８年８月 19 日～８月 31 日
調査方法	保護者連絡ツールで配信し、オンラインで回答
配付数	約 910 人
回答数	632 人
回答率	約 69.4%

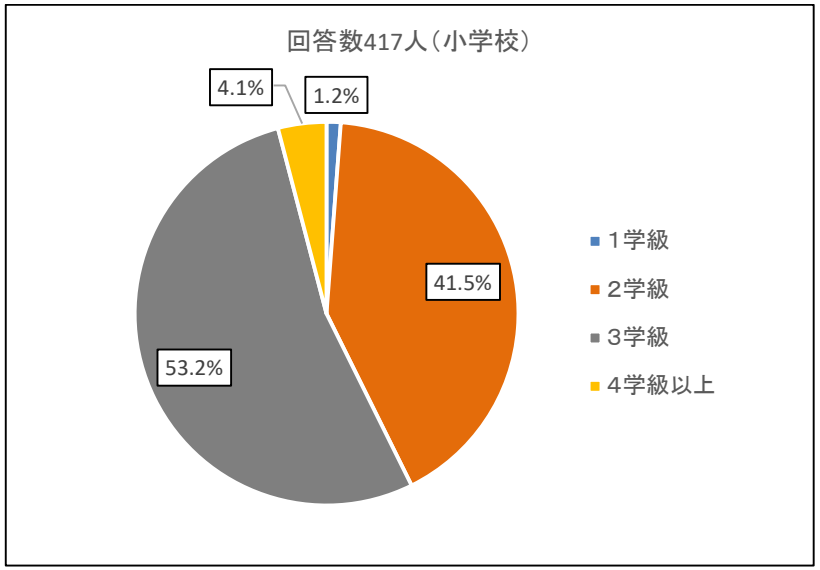
（１）教員の負担面（指導のしやすさ・業務量など）から見て、望ましい１学級の人数は何人ですか。

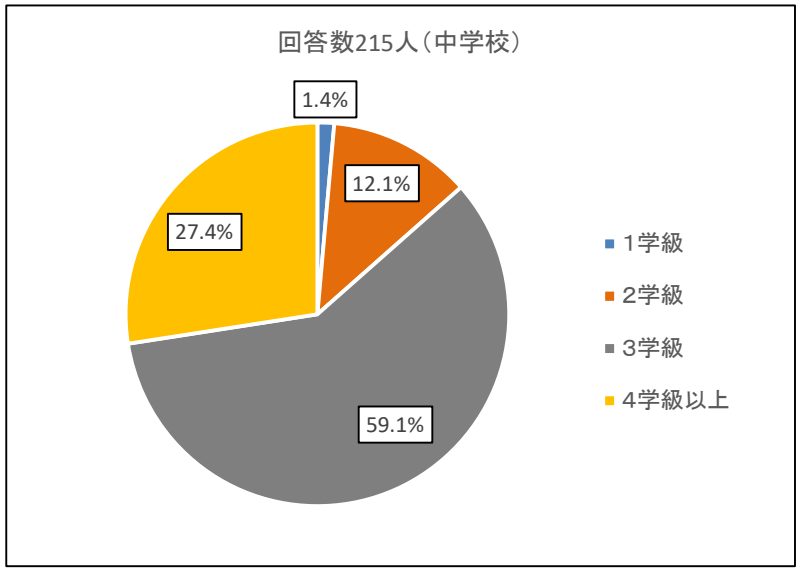


（2）子どもたちの学び（集団活動・多様な意見の交流など）の面から見て、望ましい１学級の人数は何人ですか。

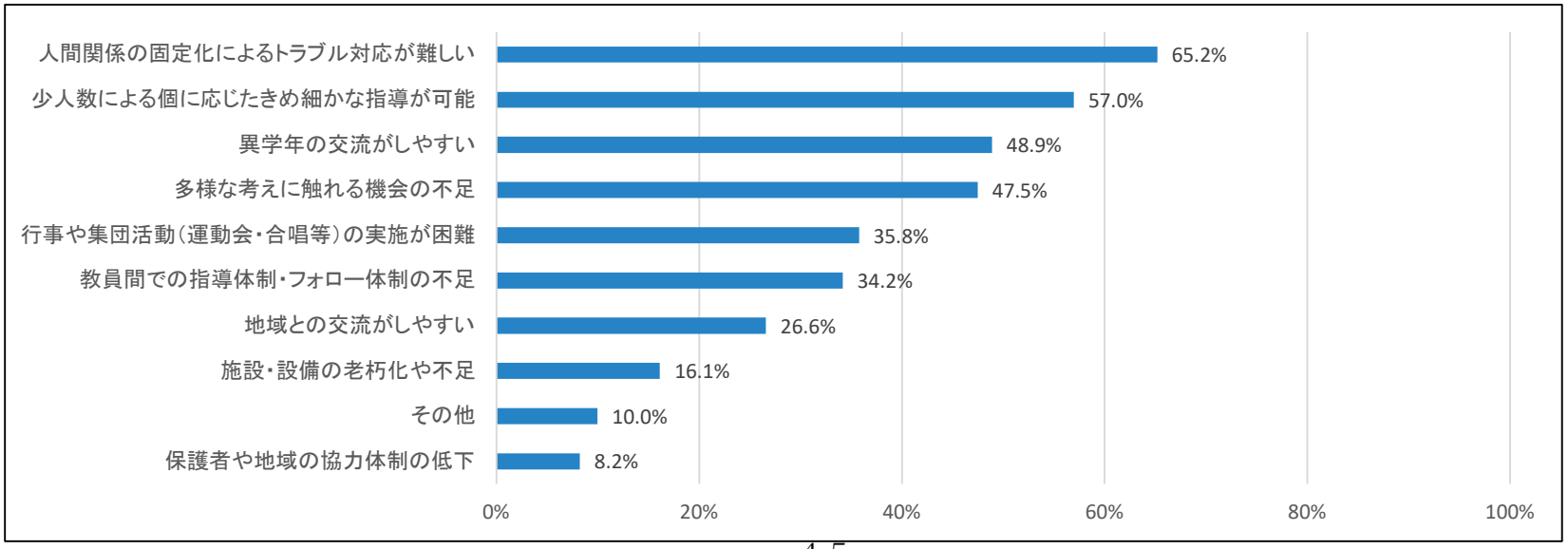


（3）学校運営や学年経営（切磋琢磨・教員間の連携）の面から見て、望ましい１学年あたりの学級数は何学級ですか。





（4）過小規模・小規模校（１学年１学級）の教育活動の現状を選択してください。



（5）学校再編（規模適正化）が進むことで、子どもたちの教育環境が良くなると期待する点はありますか。

- 教員不足の解消。
- 児童間のトラブルなど、人間関係に起因する問題について学級編成の工夫で解決できるようになる。また、学年の人数が増えることで、児童が多くの価値観に触れることになり、社会性の習得にプラスに働くことが期待できる。
- 集団生活の中でより良い人間関係を構築する力をつけること。学校の数が減ってエアコン設置などの予算をまわせるようになること。
- ５教科以外の先生も全てそろうのではないかと思い、それはたいへんよいことだと思います。免許外教科の指導は仕方がない部分もありますが、専門性に勝るものはないと思います。
- 産休や病級などで休む先生の代わりを探すのがとても大変だと思うので、統廃合を契機に教員不足の解消に繋がれば良いと思います。
- 単学級だと、人間関係が固定されてしまうが、複数学級あると、人間関係をリセットできる。
- 学校数が少なくなることで、ひとつの学校にかけられる施設設備にかかる費用が増える。教材も増えることで、子どもたちの学習がしやすくなる。
- 小中連携の推進。
- 単学級である現状では、学年単位での教育活動は担任一人の考えで行うことになるため、多様なアイディアが反映されにくい。それは児童にとっては不利益になることがあるため、素案のとおり統合になることで児童にとってだけではなく、教師側にとっても、多様な考えを取り入れた教育活動ができるようになると期待する。
- 学校の教職員が増えることによって、１教員あたりの校務分掌が少なくなり、授業づくりに費やせる時間が増えること。
- 小規模校が統合されれば、小規模校にいた子どもたちは、集団活動の経験が深まると考えられる。
- 様々な地域の特色が混ざり合って、新しい風が吹くのではないか。多少のハレーションは、子どもたちにとって、教員にとって、学びの機会となるはず。
- 教員が学級をもつことの負担が減り、若い先生のやりがいにつながる。失敗しにくい。良いところだらけです。是非全国に先駆けて学校再編を大胆にすすめてほしいです。
- 統合することで、ICT 環境が整い、校舎も改修されたらいいと思います。

（6）学校再編にあたり、市教委に配慮してほしいこと、または不安な点はありますか。

- 通学の安全性、バス通などの時間が朝早くなりすぎないような配慮。
- ICT 環境、機材の充実。
- 学校の統廃合でコミュニティが広がることにより、子どもと地域の関係、地域同士の関係が希薄になると考えます。
- 特別支援学級が統合されたとき、規模が大きくなり個に応じた細やかな指導が難しくなったり、人数の多さに不適応を起こしたりする懸念がある。支援体制も実態に合わせて考えてほしい。
- スクールバスを運行する場合、学校の日課に十分配慮してほしい。
- エアコンなどの環境設備の充実。
- 統合事業は、市教委主導で指揮をとっていただけると現場は助かります。管内の他市町で統合が上手く進んだ地域は、そのように進めていたと記憶しています。
- 校区の弾力的運用。
- 人数が増えたことによって、今までとは違う価値観の児童生徒と一緒になることが、その子のストレスになることも考えられるので、統合する２年ぐらい前から、合同学習や集合学習など取り組める行事を一緒にするなどの取組が必要と考える。
- 校区拡大により、地域見守りを強化することが大切。マンパワー・設備投資の両面で支えていただければと思う。
- 変化に伴う諸々の業務は仕方がありませんが、時間的余裕をもって準備ができるよう、必要な予告等をしてほしいと思います。
- 関係の保護者及び地域住民への理解、地域の学校への協力。
- 校区が広範囲になることで、通学もそうですが子ども達の放課後の活動範囲が広がり交通安全や公園や施設利用のトラブルが心配です。
- 学級は２名体制にしてほしい。副担任や２週間交代などができる体制づくり。
- 中学校は 1 校に全ての教科担任がいること。
- 一学級の定員の見直し。
- 教員の数を確保してほしい。

２．学校規模別のメリット・デメリット

本市は平成２１年に市内の有識者で構成する苫小牧市立小中学校規模適正化検討委員会において検討を重ね、「基本方針」を策定し、小規模校や大規模校のメリット、デメリットを整理し、それぞれの規模に応じた基本的な方針を定めました。

○：メリットと考えられる点　　●：デメリットと考えられる点

		小規模化	大規模化
学習面	学習活動	○児童生徒の一人ひとりに目がとどきやすく、きめ細かな指導が行いやすい。 ●集団の中で、多様な考え方に触れる機会や学びあいの機会、切磋琢磨する機会が少なくなりやすい。 ●学級間の相互啓発がなされにくい。	○集団の中で、多様な考え方に触れ、認め合い、協力し合い、切磋琢磨することを通じて、一人ひとりの資質や能力をさらに伸ばしやすい。 ●全教職員による各児童・生徒一人ひとりの把握が難しくなりやすい。
	指導	●児童生徒数、教職員数が少ないため、グループ学習や習熟度別学習、小学校の専科教員による指導など、多様な学習・指導形態を取りにくい。 ●中学校の各教科の免許を持つ教員を配置しにくい。	○児童生徒数、教員数がある程度多いため、グループ学習や習熟度別学習、小学校の専科教員による指導など、多様な学習・指導形態を取りやすい。 ○中学校の各教科の免許を持つ教員を配置しやすい。
	集団活動	○学校行事や部活動等において、児童生徒一人ひとりの個別の活動機会を設定しやすい。 ●運動会などの学校行事や音楽活動等の集団教育活動に制約が生じやすい。 ●部活動等の設置が限定され、選択の幅が狭まりやすい。	○運動会などの学校行事や音楽活動等の集団教育活動に活気が生じやすい。 ○様々な種類の部活動等の設置が可能となり、選択の幅が広がりやすい。 ●学校行事や部活動等において、児童・生徒一人ひとりの個別の活動機会を設定しにくい。
生活面	人間関係	○児童生徒相互の人間関係が深まりやすい。 ○異学年間の縦の交流が生まれやすい。	○クラス替えがしやすいことなどから、豊かな人間関係の構築や多様な集団の形成が図られやすい。 ○切磋琢磨すること等を通じて、社会性や協調性、たくましさ等を育みやすい。

		●クラス替えが困難なことなどから、人間関係や相互の評価等が固定化しやすい。 ●集団内の男女比に極端な偏りが生じやすくなる可能性がある。 ●切磋琢磨する機会等が少なくなりやすい。	●学年内・異学年間の交流が不十分になりやすい。
	指導	○児童生徒の一人ひとりに目がとどきやすく、きめ細かな指導が行いやすい。 ●組織的な体制が組みにくく、指導方法等に制約が生じやすい。	○学校全体での組織的な指導体制を組みやすい。 ●全教職員による各児童生徒一人ひとりの把握が難しくなりやすい。
学校経営	学校運営	○全教職員間の意思疎通が図りやすく、相互の連携が密になりやすい。 ○学校が一体となって活動しやすい。 ●教職員数が少ないため、経験、教科、特性などの面でバランスのとれた配置を行いにくい。 ●学年別や教科別の教職員同士で、学習指導や生徒指導等についての相談・研究・協力・切磋琢磨等が行いにくく、一人に複数の校務分掌が集中しやすい。	○教員数がある程度多いため、経験、教科、特性などの面でバランスのとれた教職員配置を行いやすい。 ○学年別や教科別の教職員同士で、学習指導や生徒指導等についての相談・研究・協力・切磋琢磨等が行いやすい。 ○校務分掌を組織的に行いやすい。 ●教職員相互の連絡調整が図りづらい。
	施設	○施設・設備の利用時間等の調整が行いやすい。	●特別教室や体育館等の施設・設備の利用の面から、学校活動に一定の制約が生じる場合がある。
その他		○保護者や地域社会との連携が図りやすい。 ●ＰＴＡ活動等における保護者一人当たりの負担が大きくなりやすい。	○ＰＴＡ活動等において、役割分担により、保護者の負担を分散しやすい。 ●保護者や地域社会との連携が難しくなりやすい。

※「苫小牧市立小中学校規模適正化基本方針」より抜粋

３．児童生徒数の推計方法

児童生徒数推計について

● **市全体の人口推移についてコーホート変化率法を採用**
近い将来もしくは過去に大きな人口変動が起きないと予測される場合に用いられる推計法
令和３年から７年における本市の学区別人口データを基に「変化率」を計算し、それに基づき将来人口を推計

１　必要なデータの集計

ア　未就学児童及び児童・生徒数
イ　女性人口（１５～４９歳）

２　X年における０歳人口と１～４９歳人口をそれぞれ算出

ア　０歳人口の算出方法
子ども女性比を用いて、基準人口以降の０歳人口を算出
０歳人口 ＝（１５～４９歳の女性人口）×子ども女性比
イ　１～４９歳人口の算出方法
過去５年間における人口変動（変化率）を算出
各年齢人口 ＝（前年の各年齢人口）×変化率

$$\text{子ども女性比} = \frac{\text{各年０歳人口（過去５年間）}}{\text{各年１５～４９歳の女性人口（過去５年間）}}$$

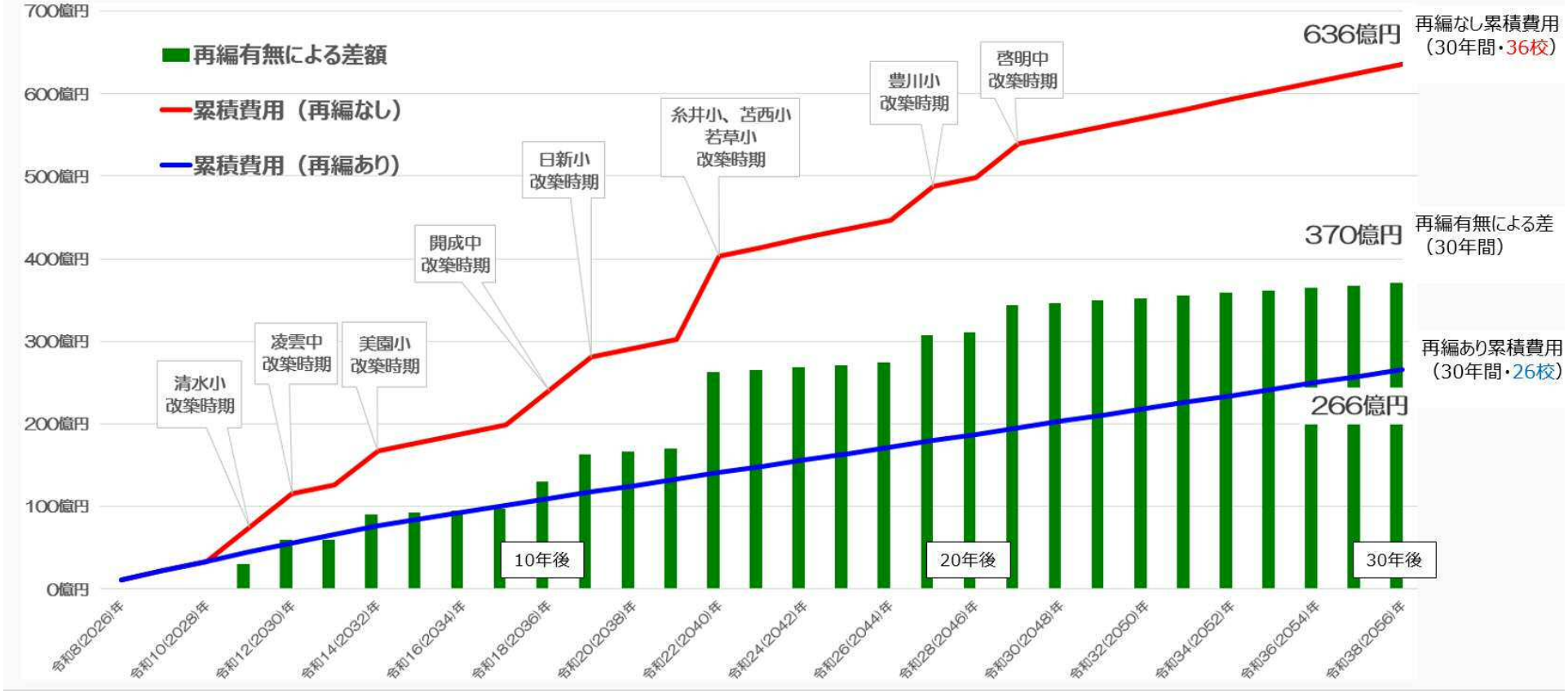
$$\text{変化率} = \frac{\text{１年後の満（A＋１）歳を迎えた人口（過去５年間）}}{\text{満A歳の人口（過去５年間）}}$$

３　（X＋１）年、（X＋２）年 … と繰り返し人口を算出

● **各校の児童生徒数推移を現状の児童生徒数により按分し算出**

４．学校の維持管理にかかる費用の推移モデル

・ 学校維持管理に関する費用（光熱水費、消耗品、施設維持補修経費、市負担人件費）を**年間１校あたり平均3,000万円**として計上
・ 改築（建て替え）は、目標使用年数である65年を迎えたときを改築時期と仮定、費用は、社会情勢等により大きく変動するが、**1校あたり30億円**と仮定
・ 施設の解体費用及び再編対象とならない学校の改築費用は、再編有無を問わずそれぞれの数値に計上されるため除外
・ 学校再編によるスクールバス運行費用などは、現時点で不確定のため計上していない



5．学校の統廃合に関する地域説明会結果

本ビジョン策定にあたり、市民の方々の意見を反映させるため、苫小牧市市民参加条例に基づき、地域説明会を開催しました。

日時	会場	参加人数	日時	会場	参加人数
７月１日（水）	凌雲中学校	15 人	11 月２日（月）	美園小学校	15 人
７月２日（木）	啓明中学校	９人	11 月４日（水）	開成中学校 （清水小学校）	27 人
７月３日（金）	日新小学校	16 人	11 月５日（木）	豊川小学校	８人
７月７日（火）	豊川小学校	23 人	11 月６日（金）	凌雲中学校	８人
７月８日（水）	糸井小学校	７人	11 月 10 日（火）	明野中学校	10 人
７月９日（木）	苫小牧西小学校	17 人	11 月 11 日（水）	日新小学校	11 人
７月 10 日（金）	開成中学校 （清水小学校）	43 人	11 月 15 日（日）	苫小牧市役所	14 人
７月 16 日（木）	明野中学校	12 人			
７月 17 日（金）	若草小学校	13 人			
７月 21 日（火）	美園小学校	24 人			

- 学校再編ビジョンに関する説明動画の視聴回数 2,885 回
  （令和８年 11 月 16 日時点）
- 意見フォームからの意見 13 件
  （令和８年 11 月 16 日時点）